このたびはスバル車をお買いあげいただき
ありがとうございます。

この取扱説明書は、お車や装備品の取り扱い、
守っていただかなければならないこと、
万一のときの処置などについて説明しています。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、
使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
ご使用になる前に必ずお読みください。

「必読！安全で快適な運転のポイント」や⚠**警告**⚠**注意**⇧**アドバイス**マークのところは重要ですのでしっかりとお読みください。

⚠**警告**	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。
⚠**注意**	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。
⇧**アドバイス**	知っておいていただきたいこと 知っておくと便利なこと

イラストのマークについて
禁止行為(してはいけない行為)を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

	禁止行為（してはいけない行為）

・グレード等により異なる装備については ✤ マークがついています。
・スバル販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては、添付される取扱説明書をご覧ください。

・ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。
・保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
・取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管してください。
・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために取扱説明書、メンテナンスノートを車につけておいてください。

・装備仕様の変更により、この説明書の内容とお車が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

PLEO RA1-370001～399999,RA2-171001～199999,RV1-102001～124160,RV2-032001～036570

CONTENTS

総　目　次

イラスト目次

⑪
③④
②
⑤
⑦⑧
⑬
⑨
⑮
⑩
⑫
①⑥
⑭
⑯
⑰

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩
⑪
⑫
⑯
⑬
⑭
⑮

＜マイルドチャージ車＞

＜マイルドチャージ車以外＞

1 必読！安全で快適な運転のポイント

点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。
☆別冊のメンテナンスノート参照

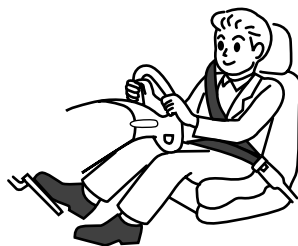
タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法的に義務づけられています。タイヤ空気圧はスペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月１回程度）に点検・調整してください。とくにタイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
☆7－6ページ参照

バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限(LOWER LEVEL)以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ない時は上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

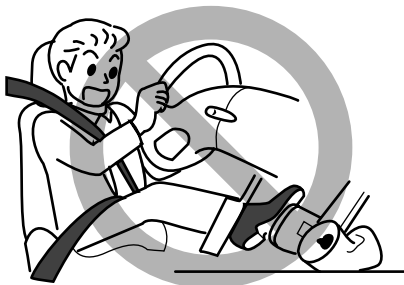
正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。
☆2－14、2－40ページ参照

シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☆2－21ページ参照

運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルやブレーキペダルにひっかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内に荷物を積むとき

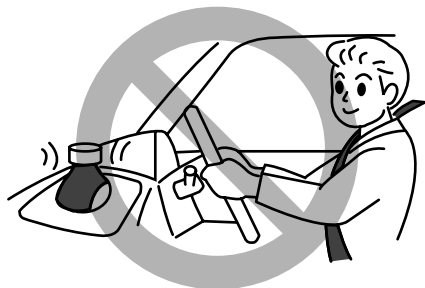
- 荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながることがあります。

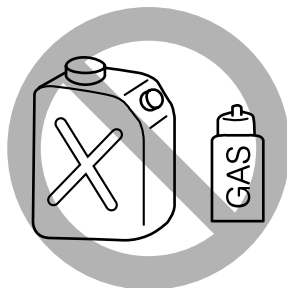
ルーフに荷物を積むとき

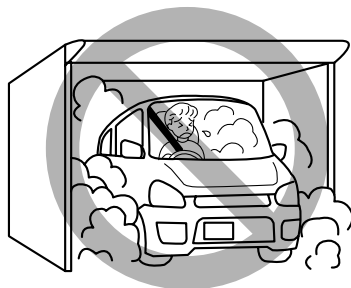
- ルーフを使用して荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使いますと、車体に損傷を与えることがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに添付の取扱説明書を必ずお読みください。

インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、スイッチの押されかたによっては、故障や加熱・火災の原因になります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆2−33ページ参照

危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

車の後ろに気をつけて

- 人や障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。

こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告ランプが点灯したままのとき

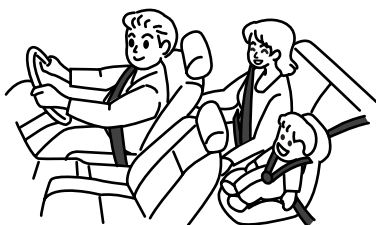
燃料には無鉛ガソリンを

- 無鉛レギュラーガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料等の不適切な燃料やガソリン添加剤は、エンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。

お子さまを乗せるときの気くばり

お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合はチャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☆2－34ページ参照

チャイルドシートを使用して

- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合、チャイルドシートを使用してください。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。

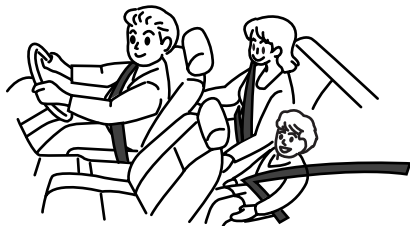
〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～9か月頃まで	4か月～4歳頃まで	4歳～12歳頃まで

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていない時でも確実にシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけた時などにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときの気くばり

お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用してください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまはチャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグの前やシートの上に立たせたりした状態では走行しないでください。

ドアの開閉に注意して

開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないようにご注意ください。

☆2−4ページ参照

窓から顔や手を出さないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

お子さまを乗せるときの気くばり

パワーウインドゥに気をつけて

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはパワーウインドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。
  お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－8ページ参照

車から離れるときはご一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキ等、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

i-CVT車の特徴と運転上の注意

☆3－24 ページの「i-CVT車の正しい運転のしかた」も併せてお読みください。

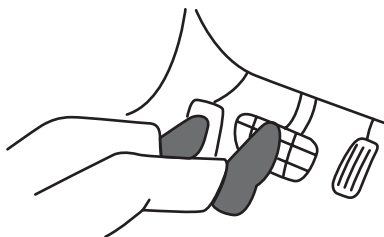
クリープ現象があります

- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、(アイドルアップ) クリープ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルを確実に踏んでください。
  必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

強い加速を必要とするとき キックダウンができます

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。

ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。

セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時はアクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏み、セレクトレバーを操作してください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないとPレンジから動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため後退した後は、すぐRから一度Nに戻す習慣をつけてください。

セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときはP、前進するときはD（後退はR）の位置にあることを目で確認してください。

発進時アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時は、ゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

走行中はセレクトレバーをNにしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中（前進時）は、Rにしないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

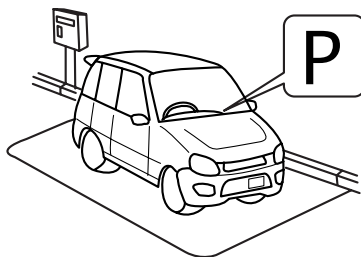
車が完全に止まらないうちにPに入れないで

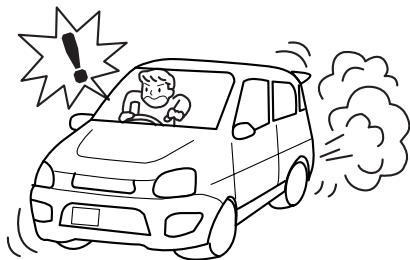
トランスミッションの損傷の原因になります。

駐車するときはPにして、駐車ブレーキを確実に

車が動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーをPにし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1－19ページ参照

i-CVT車の特徴と運転上の注意

停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。

車から離れるときはエンジンを止めて

- クリープ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーを[P]にして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。

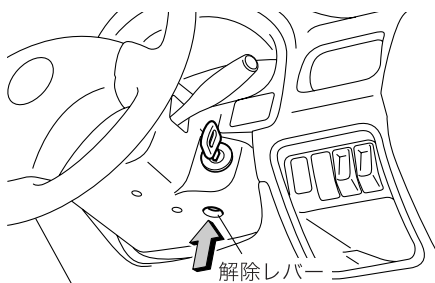
[R]に入れるとブザーが鳴ります

[R]に入れるとブザーが鳴り、[R]であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

シフトロックシステムがついています

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でなければできません。
- セレクトレバーを手前に引いたままブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
- エンジンスイッチからキーを抜くときは、セレクトレバーを[P]にしてください。([P]以外ではキーをACCからLOCKに回せません)

[P]からのレバー操作ができないとき

①エンジンスイッチをACCまたはON位置で
②ブレーキペダルを踏み込み
③エンジンスイッチ下側にある解除レバーを奥側いっぱいに押し
④セレクトレバーを[P]から抜いてください。
シフトロックシステム等の故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

タイヤ交換のときは

４輪のうち１輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷につながるおそれや、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

☆7－10ページ参照

走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－16ページ参照

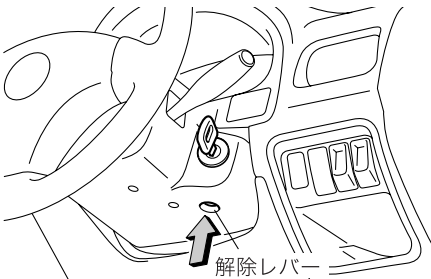
- ボンネット内部は高温になっています。ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。やけどをすることがあります。エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- オーバーヒートしてエンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆6－16ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルをしっかり握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように点検してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。

キーが抜けなくなったとき

①セレクトレバーを[P]レンジに入れ
②ブレーキペダルから足を放して
③エンジンスイッチ下側の穴にある解除レバーを手前に引きながら
④キーをLOCKまで回して抜いてください。

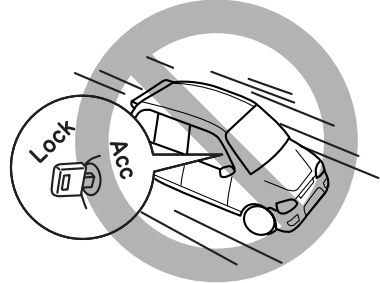
シフトロックシステム等の故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

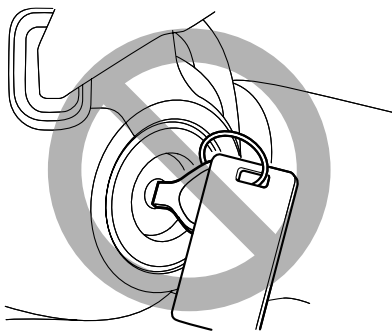
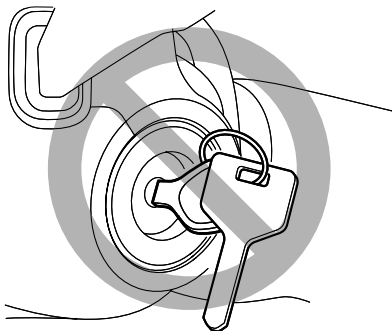
走行中はエンジンスイッチを切らないで

- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－35ページ参照

- 走行中「LOCK」にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。

キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。又、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

ABSを過信しないで

ABS は必ずしも制動距離を短くするものではありません。
下記の道路などでは ABS が作動した場合、ABS が付いてない車よりも制動距離が長くなることがあります。
ABSが付いてない車と同様、充分な車間距離をとって安全運転に心がけてください。

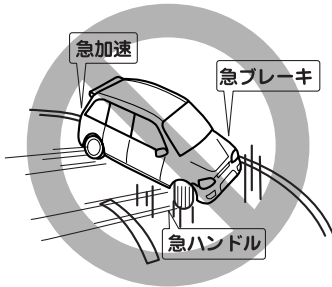
- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道(新雪路、圧雪路、アイスバーンなど)

☆3−33ページ参照

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するようなシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。
☆1－18ページ参照

雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

☆3－35ページ参照

〈エンジンブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーンに入らないようにしてください。

〈シフトダウンとは〉

- マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。
- i-CVT 車ではセレクトレバーを S にすると低速側に切り替わります。
- シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、進路状況や車間距離に注意して行ってください。

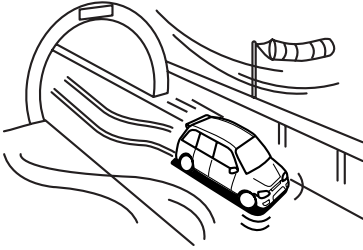
横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転しましょう。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆8－5ページ参照

- 万一のために停止表示板（停止表示灯）を車に備えておいてください。
  停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。

こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。
  タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（約1,000 kmまで）はエンジン回転をなるべく抑えてご使用ください。慣らし運転後は各変速ギヤ位置の上限速度を超えないよう運転してください。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや急加速などをしないでください。

〈マニュアル車〉

変速位置	速 度 範 囲
1速	0〜25 km/h
2速	10〜45 km/h
3速	20〜70 km/h
4速	30〜100 km/h
5速	40〜100 km/h

〈i-CVT車〉

- 0 km/h から最高速度まで自動的に変速しますので、制限速度内で走行してください。

雪道走行するときには

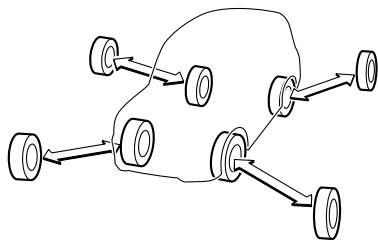
4輪とも冬用タイヤで

- 雪道走行が予想される場合は冬用タイヤ(スタッドレスタイヤ)を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4 輪とも必ず指定空気圧および指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

☆1−12ページ参照

控えめな運転に心がけて

- 冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ､車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、マニュアル車では２速ギヤの使用をお奨めします。

☆5−5ページ参照

タイヤチェーンは 非常のときのみ前輪に

- タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に取り付けてください。

☆5−7ページ参照

- タイヤチェーンを取り付けると、前後のバランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。
  急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。

燃えやすいものの近くに車を止めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

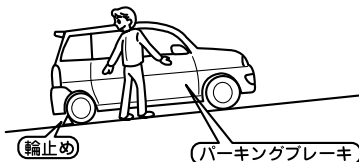
坂道に駐車するときは

無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

①駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認します。

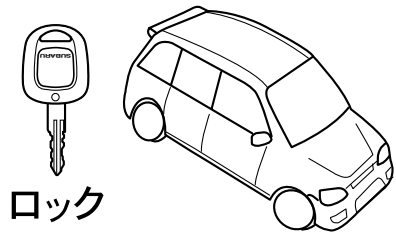
②マニュアル車：チェンジレバーを以下の位置に入れます。
下り坂；“R”
登り坂；“1”
i-CVT車：セレクトレバーを[P]位置に入れます。

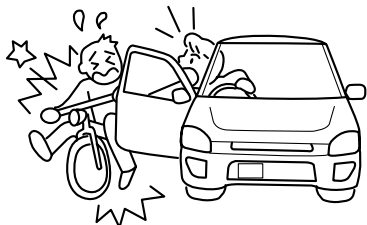
③輪止め(石やタイヤストッパー)をします。

なお、急な坂での駐車は避けてください。

車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動き出したり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。

仮眠するときは必ずエンジンを止めて

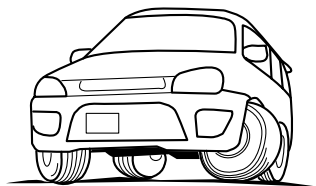
仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

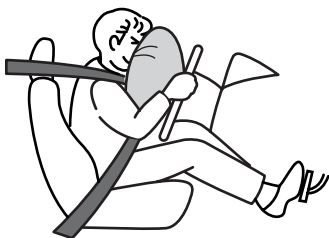
ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。(5秒未満)長く続けると以下の状態になるおそれがあります。

- 油圧パワーステアリング付車の場合
  オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置が損傷することがあります。
- 電動パワーステアリング付車の場合
  ハンドル操作力が重くなることがあります。

SRSエアバッグシステムについて

SRSエアバッグシステムとは

運転席、助手席 SRS エアバッグシステムは、エンジンスイッチが ON のとき車両が前方から強い衝撃を受けた場合のみ作動します。この装置は運転者および助手席同乗者の頭部への衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置で、横方向や後部からの衝突、あるいは横転などの衝撃では作動しないよう設定されています。

＜運転席SRSエアバッグ＞

＜助手席SRSエアバッグ＞

シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。SRS エアバッグシステムはシートベルトを着用している時のみ効果を充分発揮します。
  シートベルトを着用していないと命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2－21ページ参照

お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。
  スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付の専用取扱説明書をご覧ください。
- 助手席SRSエアバッグ付車は、助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1－6、2－29ページ参照

燃料補給時の注意

指定燃料を必ずご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

☆1－5ページ参照

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど火気を絶対に近づけないでください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。
  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- 必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
- フューエルキャップはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。
- 給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。(座ることで再帯電することがあります)
- 給油口に他の人を近づけないでください。
- セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後はフューエルキャップを“カチッ、カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締っていることを確認してください。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装着されています。

クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかかりません。

☆3－21ページ参照

AWD※車は万能車ではありません

二輪駆動車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3－31ページ参照

※AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

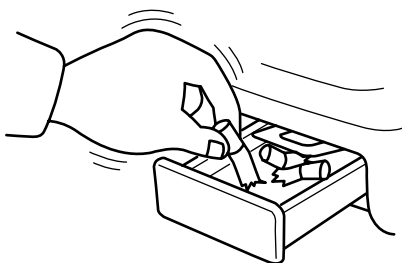
走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話等を手で保持して通話したり、メールの送受信等のために画面を注視することは禁止されています。

アクセサリーの取り付けに注意

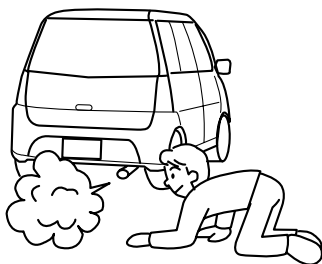
ウインドゥにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

灰皿を使用したあとは

マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。

車内にガスライター、スプレー缶等を放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶等を放置しないでください。車室内が高温になるためライターやスプレー缶等が爆発するおそれがあります。

排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

ラジエーターが熱いときキャップを外さないで

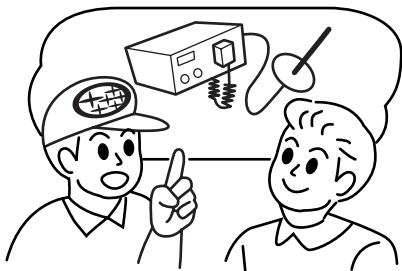
ラジエーターやリザーブタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

こんなことにも注意を

不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながることがあります。
- スバルが国土交通省に届け出した部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。（タイヤ、ホイール、マフラーなど）

電装品、無線機を取り付けるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
スバル販売店にご相談ください。

純正部品をお奨めします

- マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因にもなります。
  例えば、マフラー、エアクリーナーエレメントの変更はエンジン部品等の損傷を招きます。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
- 詳しくは「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。

点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ねそなえております。お客様が安心してお車をお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。
- AWD 車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

保証書・メンテナンスノートについて

別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証について

保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。
一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややり方などが記載してあります。
  よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千kmを超える場合は5千km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

保証期間と点検整備時期

環境にやさしい運転をするには

常にタイヤの空気圧を適正にしましょう。

走行する前に、不必要な荷物は降ろしましょう。

長時間停車するときは、エンジンを止めましょう。

空吹かしはやめましょう。

エアコンの使用は、少し控えましょう。

発進や加速はスムーズにしましょう。

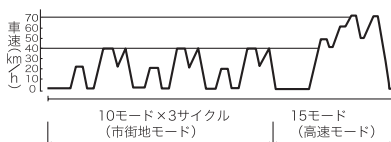
経済速度で走行しましょう。

- 一般道路や有料道路では、法定速度で走行すると燃費が良くなります。
- 下り坂や減速時には、エンジンブレーキを使いましょう。燃料噴射が停止し、燃費向上につながります。

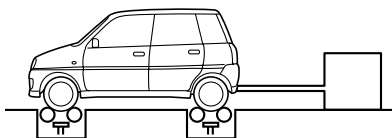
アドバイス

10・15モード燃費とは

車両カタログに記載されている「10・15モード燃費」とは、一定条件にしたがって測定した燃費です。
このモードは、市街地モード（10モード）と高速モード（15モード）の2パターンを測定したものです。
測定方法は、10の走行パターンを想定したテスト（市街地モード）を3回行い、続けて 15 の走行パターン（高速モード）を想定したテストを1回行います。

●10・15モード

100639

平均速度：約23 km/h
平均距離：約4.2 km

この測定は実走行ではなく、測定装置（シャシーダイナモメーター）上に車両をのせて行います。

100642

「10・15モード燃費」は、都市内走行状態を想定して測定したもので、実際の走行とは異なる場合が多くあります。
例えば、天候や路面、車両重量、運転等に応じて燃費が異なります。

2 運転する前に

・各部の開閉

・シート

・シートベルト

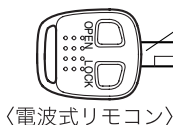
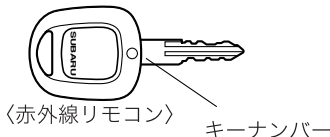
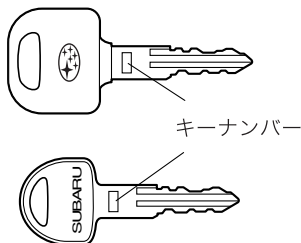
・SRSエアバッグシステム

・ミラーの調整

各部の開閉

キー

キーはドアの施錠・解錠、エンジンの始動・停止に使います。

<リモコンキー>

<キー>

- リモコンキーはドアやリヤゲートの施錠・解錠がボタン操作でできます。

アドバイス

- 万一に備えてキーナンバーをメモしておいてください。
- キーを作るときはスバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

ドア

注意

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあり危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。

アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。
  ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 乗車中の施錠・解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますのでご選択ください。

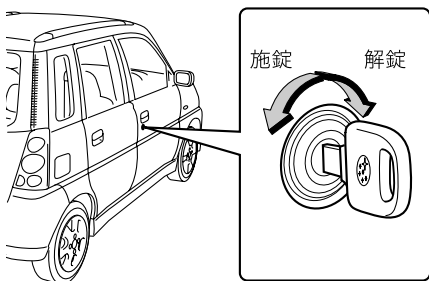
<乗車中、施錠している場合>

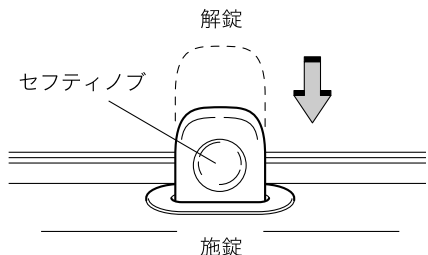
・同乗者（とくにお子さま）が誤ってドアを開けることを防ぎます。
・車外からの侵入者を防ぎます。
・シートベルトの着用と併せて事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

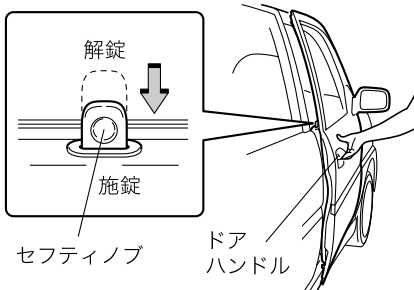
<乗車中、解錠している場合>

・万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

■車外から行う施錠と解錠

キーを前方に回すと解錠、後方に回すと施錠されます。

■車内から行う施錠と解錠

セフティノブを下げると施錠し、上げると解錠されます。

■キーを使わずに施錠するには

- フロントドアはセフティノブを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

- リヤドアはセフティノブを施錠側にし、そのままドアを閉めます。

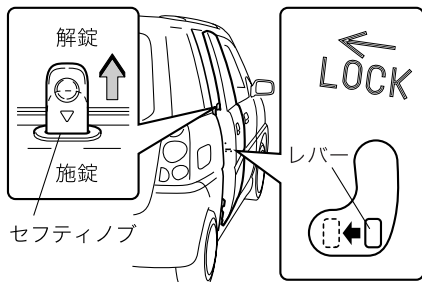
■集中ドアロック

運転席ドアを施錠・解錠すると全てのドアも同時に施錠・解錠します。
リヤゲートも同時に施錠・解錠します。

■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザー（ピーッ、ピーッ音）が鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

■チャイルドプルーフ

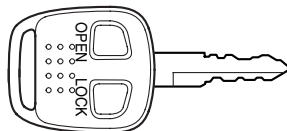
チャイルドプルーフのレバーをLOCK側にしてドアを閉めると、セフティノブの位置に関係なく、インナーハンドルではリヤドアを開けることはできません。お子さまを乗せるときにご使用ください。

●チャイルドプルーフが働いているときのドアの開けかた

セフティノブを解錠状態にして、車外からドアハンドルを引くとドアは開きます。

●万一のときの車内からの開けかた

窓ガラスを下げ、セフティノブが施錠されている場合はセフティノブを解錠状態にして手を外に出し、ドアハンドルを引くとドアが開きます。

■電波式リモコンドアロック

電波により、車から離れたところ（約1 m）から全ドア（リヤゲートを含む）の施錠・解錠ができます。

車のまわりからキーの「OPEN」ボタンを押すと解錠します。
「LOCK」ボタンを押すと施錠します。

●施錠・解錠の作動確認

解錠時：非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。
施錠時：非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

- ルームランプスイッチをドア連動（中間）位置にしておくと、解錠時はルームランプが約 15 秒間点灯します。点灯中、「LOCK」ボタンが押された場合、またはエンジンスイッチにキーが差し込まれた場合、ルームランプは消灯します。（4－27ページ参照）

アドバイス

- 車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV 塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- 送信機で解錠してから約30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は自動的に施錠されます。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアまたはリヤゲートが開いているときは作動しません。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  ・ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。バッテリーが上がり、回路故障の原因になります。
  ・強い衝撃を与えないでください。
  ・電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際はバッテリーのショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
  ・水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取ってください。

●リモコンキーの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

使用電池・・・・・・・ボタン電池CR1620

①スクリューを１本外し、溝部にマイナスドライバーを差し込み、カバーを外します。

②電池を取り出し、新しい電池のプラス側を下にして挿入します。

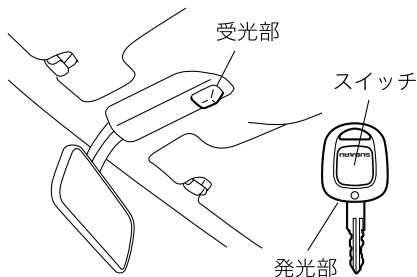
注意

電池および取り外した部品は、とくにお子さまが飲みこまないようにご注意ください。

アドバイス

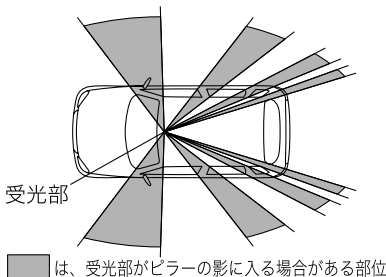
- 液漏れなどを防ぐため、電池のプラス極とマイナス極は正しく取り付けてください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■赤外線リモコンドアロック

リモコンキーの発光部をルームミラー取付部の近くにある受光部に向けてください。スイッチを押すごとに全てのドアとリヤゲートを施錠・解錠します。

アドバイス

赤外線リモコンドアロックは

- リモコンは受光部が確認できる位置で車両から0.5 m以内で作動しますが、直射日光などで周囲が明るい場合、近くにTV塔や発電所、放送局があるなどの状況により変わることがあります。
  また、赤外線を利用しているため、リモコンキー発光部と受光部を直線で結ぶ間に、ピラーやルームミラーなどがあると作動しない場合があります。

は、受光部がピラーの影に入る場合がある部位

- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- 車のガラスにフィルムを貼りつけたり、カーテンを取り付けた場合は、リモコンドアロックが作動しなくなることがありますのでご注意ください。
- 発光部と受光部が汚れると作動しない場合があります。この場合ウエス等で拭き取ってください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。

キーを取り扱うときは

- ダッシュボードの上など直射日光が当たり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池切れ、回路故障の原因になります。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 電池（CR-2032：市販品）交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショート（⊕、⊖）に注意してください。
- 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取ってください。

●リモコンキーの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

使用電池・・・・・・・ボタン電池CR2032

①スクリューを１本外し、溝部にマイナスドライバーを差し込み、カバーを外します。

②電池を取り出し、新しい電池のプラス側を下にして挿入します。

注意

電池および取り外した部品は、とくにお子さまが飲みこまないようにご注意ください。

アドバイス

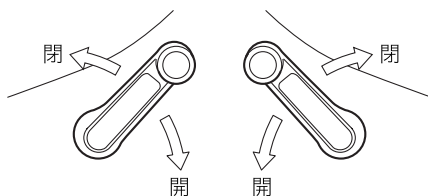
- 液漏れなどを防ぐため、電池のプラス極とマイナス極は正しく取り付けてください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

手動式ウインドゥ✤

各ドアにあるハンドルを回して開閉します。

〈助手席側〉

〈運転席側〉

パワーウインドゥ

エンジンスイッチがON位置のときスイッチ操作で窓ガラスの開閉ができます。

⚠ 警告

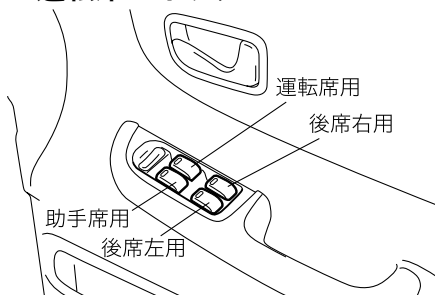
- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはウインドゥロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

⚠ 注意

ウィンドゥの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウィンドゥの故障の原因になります。

アドバイス

- 車体の構造上､後席のウインドゥガラスを全開にすることはできません。
- ドアにより、ウインドゥの昇降速度が異なることがありますが異常ではありません。

■運転席スイッチ

●運転席ウインドゥの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：スイッチを押します。
閉めるとき：スイッチを引き上げます。

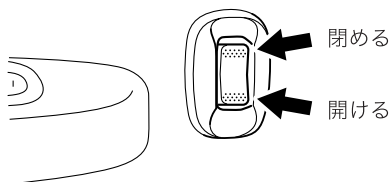
開ける

閉める

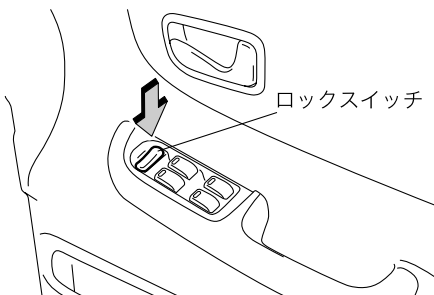
- 自動開閉中にウインドゥの開閉を停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆方向に軽く操作します。

●運転席以外のウインドゥの開閉

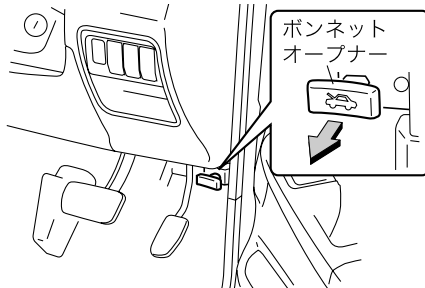
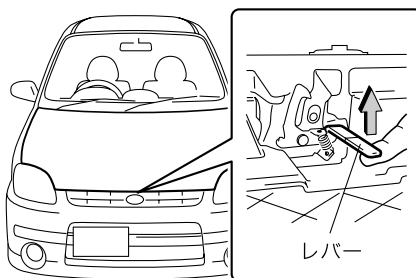
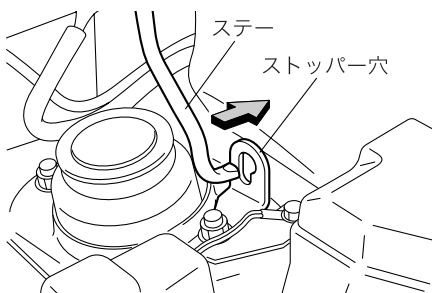
スイッチを操作している間､作動します。

■助手席、後席スイッチ
スイッチを操作している間、作動します。

アドバイス

ウインドゥロックスイッチがロックになっているときは、スイッチを操作しても作動しません。

■パワーウインドゥの ロックスイッチ
ウインドゥロックスイッチをロックにすると助手席と後席のパワーウインドゥは作動しません。
お子さまを乗せるときなどにご使用ください。

ロック側を押すと助手席と後席のウインドゥガラスは開閉ができなくなります。反対側を押すとロックが解除されます。

ボンネット

■開けるときは
①運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

②ボンネットとフロントグリルのすき間に手を入れ、レバーを矢印方向に押し、ボンネットを持ち上げます。

③ボンネットの裏にあるステーをホルダーから外し、ボンネットのストッパー穴に入れます。

- 走行直後にボンネットを開ける場合、エンジンルーム内の部品は高温になっておりますので、やけどなどに気をつけてください。
- ボンネットを開けた際、ステーがストッパー穴に確実に入っていることを確認してください。また、風の強いときには充分注意して開けてください。
  突然ステーが外れて閉まることがあり危険です。

アドバイス

ワイパーアームはたたんでください。立てたままでは、ボンネットを傷つけます。また、ボンネットが開いているときに、ワイパーを作動させないでください。

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディ近くになったら（約15 cm）手を放します。

⚠ 注意

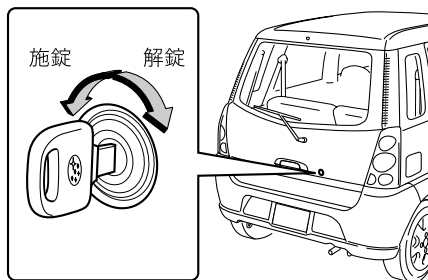
- ボディ近くまで降ろして手を放す際は、指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。

アドバイス

ボンネットを閉めるとき、ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットが変形することがあります。

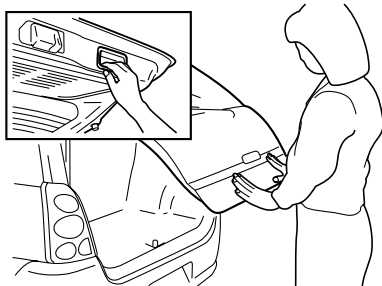
リヤゲート

■施錠、解錠

半ドアでないことを確かめます。
キーを確実に差し込んで右に回すと解錠、左に回すと施錠されます。

■開けるとき

アウターハンドルを引いてリヤゲートをゆっくりと最上部まで持ち上げます。
また、リヤゲートが自然に降下しないことを確認してください。

■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。

⚠ 注意

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときは、リヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください。）や荷物を挟まれないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。

- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープ等が噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

アドバイス

- アウターハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開いてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。
- 電波式、赤外線リモコンドアロック付車は、リモコンキーでリヤゲートを施錠・解錠することができます。
- 集中ドアロック付車は、運転席ドアを施錠・解錠するとリヤゲートも同時に作動します。

燃料補給口

燃料補給口は車の右後方にあります。

警告

燃料補給時にはは必ず次のことをお守りください。

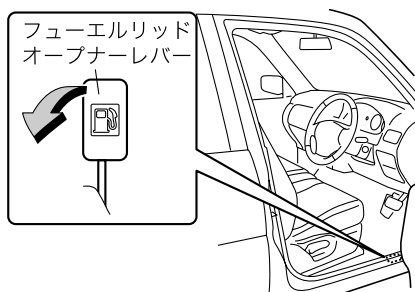
- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

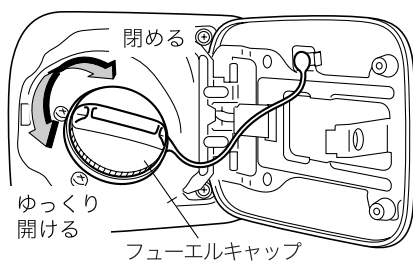
☆1−22ページ参照

注意

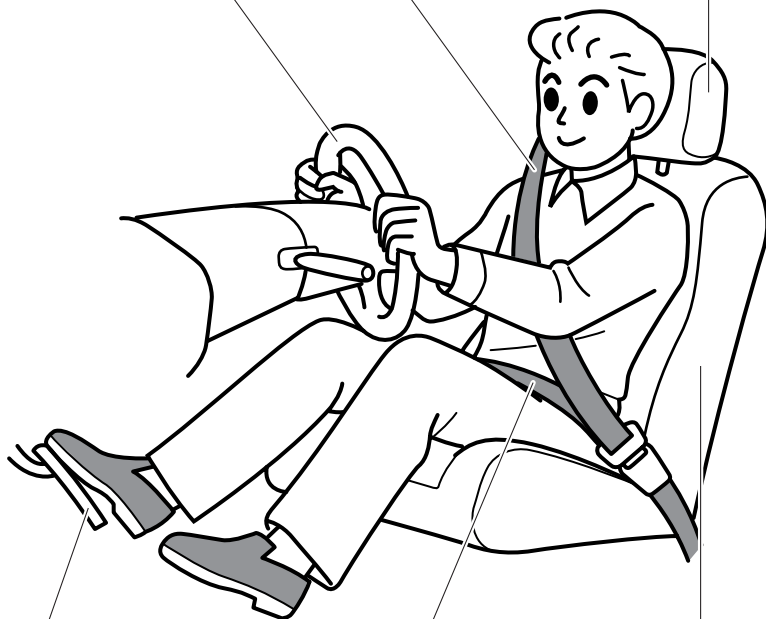
セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。

■フューエルリッドの開閉

運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で押さえつけてください。

■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを回して開閉します。
燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がするまで右に回して閉めます。

シート

正しい運転（乗車）姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

⚠ 警告

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったりして重大な事故や傷害につながるおそれがあります。シートを調整した後はシートを軽くゆすり「確実に固定されていること」を確認してください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が充分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレスト付車は、ヘッドレストを確実に取り付けてください。外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

アドバイス

シートのダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

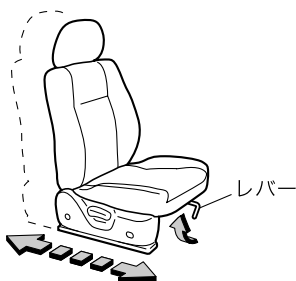
フロントシート

シートのドア側と下部のレバー操作で調整ができます。

⚠ 警告

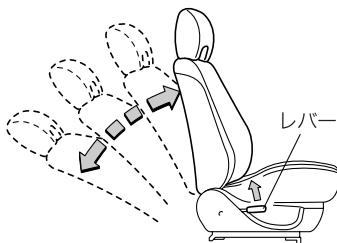
調整は、運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
☆2－15 ページの注意事項もお守りください。

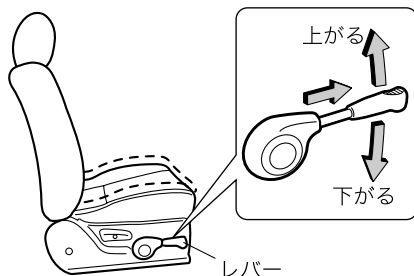
■前後調整

レバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

⚠ 注意

後方にスライドする際には、後方乗員の足などが挟まれないように注意してください。

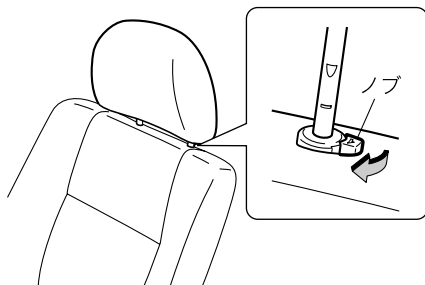
■リクライニング調整

レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

■上下調整

レバーを引き出し、回すとクッション全体を上下に調節することができます。

■ヘッドレストの脱着と調整

⚠ 警告

運転するときには
ヘッドレストを確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

●取り外すとき
ノブを矢印方向に回し、ヘッドレストを引き上げます。

●取り付けるとき
ヘッドレストの脚と背当ての差し込み部を合わせ、ノブを矢印方向に回し、静かに下げます。

●高くするとき
ヘッドレストを持ち上げ、ツメのかかった位置で止めます。

●下げるとき
ノブを矢印方向に回し、ヘッドレストを押し下げ、ノブを戻し、ツメのかかった位置で止めます。

リヤシート

⚠ 警告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあります。

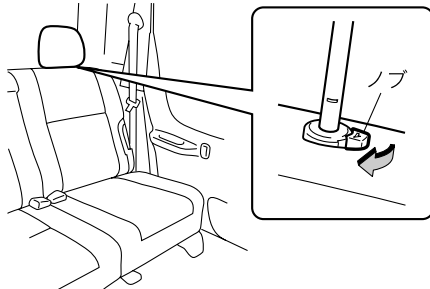
☆2－15 ページの注意事項もお守りください。

■背当ての角度の調整

背当てを手で押さえながら背当ての横にあるレバーを前方に引き、背当ての角度を調整します。
左右独立して行えます。
※前席のような背当てを戻す、スプリングはありません。

⚠ 注意

- リクライニング操作後は、背当て上端を前後にゆすり、シートが確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背当てを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当ての角度を調整するときは、リクライニングヒンジカバー内へ手を入れないでください。
- ISO-FIX 方式の乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを装着したとき、リクライニング操作を行わないでください。

■ピローの脱着

●取り外し

ノブを矢印方向に回し、ピローを引き上げます。

●取り付け

ピローの脚と背当ての差込部を合わせ、ノブを矢印方向に回し、静かに押し下げます。

⚠ 警告

ピローは確実に固定してください。

■荷室として使用するとき

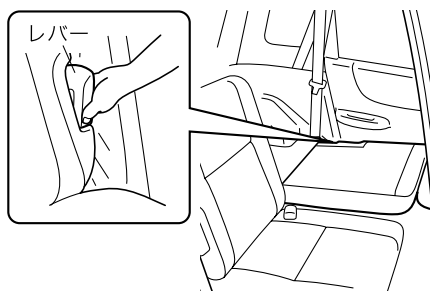
リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。

■分割可倒式リヤシート

●室内から背当てを倒すとき

室内側から行う場合背当ての横にあるレバーを前方に倒し、背当てを前に倒します。

一番前に倒れた状態でロックします。

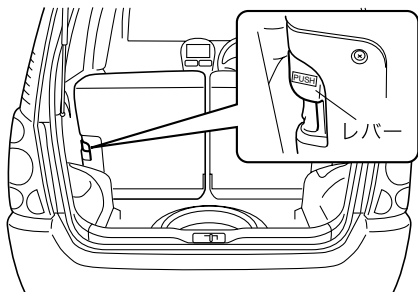
起こすときは背当ての後ろ側からレバーを押したまま、背当てを起こします。

左右独立して行うことができます。

●荷室から背当てを倒すとき

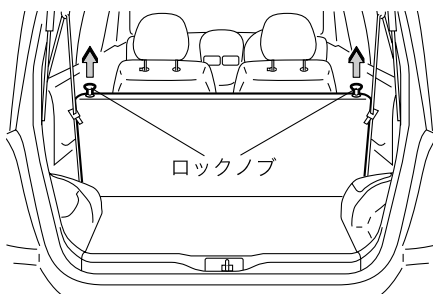
荷室側から行う場合背当ての横にあるレバーを押したまま、背当てを前に倒します。

一番前に倒れた状態でロックします。

戻すときはレバーを押したまま、背当てを起こします。

左右独立して行うことができます。

■一体式リヤシート（バン）

●折りたたむとき

左右のロックノブを同時に引き上げてロックを外してから背当てを前に倒します。

●起こすとき

背当てを起こし、後ろに押してロックさせます。ロック状態を確認します。

⚠ 警告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。
  急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害につながるおそれがあります。
- 荷物や長い物をのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害につながるおそれがあります。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆすり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

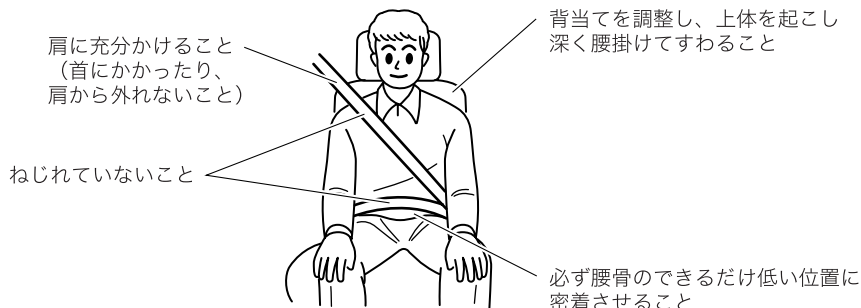
アドバイス

フロントシートがつかえてカーゴスペースが作りにくいときは、ピローを外すか、フロントシートの背当てを起こしてください。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

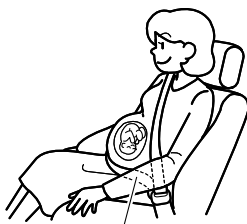
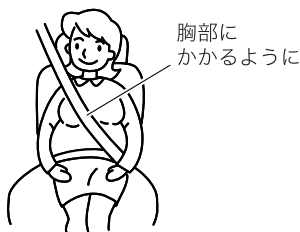
シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合もあります。

次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠ 警告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」（2−14ページ）をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 6 歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
  6 歳以上のお子さまでもシートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
  なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。

＜選択の目安＞

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重(目安)	9 kg以下	9〜18 kg	18〜36 kg
身長(目安)	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢(目安)	0か月〜9か月頃まで	4か月〜4歳頃まで	4歳〜12歳頃まで

⚠ 警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。
  万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、充分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき充分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。
（ELR機構）

■ 3 点式シートベルトの着用のしかた

●着用のしかた

①タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

②ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

③正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

●外すとき

外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアンカーでベルトの高さを調整します。（2−25 ページ）
- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
  それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警告灯

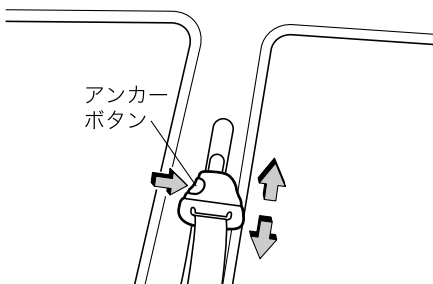
エンジンスイッチがONのとき、運転席シートベルトが未着用の場合､メーター内の警告灯が点灯します｡運転席シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むと消灯します。

■ショルダーアンカーの高さ調整

シートベルトが肩から外れないように座高に合わせてショルダーアンカーの高さを調整します。

①上げるときはアンカー本体を上に動かし、下げるときはアンカーボタンを押しながらアンカーを動かして最適な位置を選びます。

②アンカーを下方に動かして固定されていることを確認します。

警告

ショルダーアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。
守らないと衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。
☆2－24ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで運転席乗員をシートにしっかり固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
プリテンショナー付シートベルトは運転席に装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。
助手席はメーカーオプションまたは、グレード別になります。

⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。

☆2−14ページ参照

- シートベルトを正しく着用する。

☆2−21ページ参照

次のような作業するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを破棄するとき
- 廃車するとき

アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。プリテンショナー付シートベルトが作動したときは、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは SRS エアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

■３点式シートベルトの着用のしかた

フロントシートベルトと同様です。
2−24 ページをご覧ください。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。
チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるため、チャイルドシート取り付け時に便利です。

〔ISO-FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO-FIX固定バーに取り付ける場合には、2 − 29 ページの「チャイルドシート固定専用バー」をご覧ください。〕

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

①チャイルドシート（別売／スバル純正ISO-FIX方式を除く）を取り付けます。
②チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのピローを取り外します。（ピロー付車）
③シートベルトを引き出しチャイルドシートにシートベルトを通して、タングをバックルに確実に差し込みます。
④肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）
⑤チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。
⑥チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

①バックルのボタンを押して、ベルトを外します。
②ベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除します。

⚠ 警告

- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシート固定機構のない車にチャイルドシートを取り付ける場合は、ロッキングクリップを使い、シートベルトがたるまないように固定してください。

（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。
- リクライニング式シートの場合は、チャイルドシートを正しく装着できる位置に調整して使用してください。

チャイルドシート固定専用バー（以下ISOバー）

リヤシートの左右席に乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを固定するための固定バー（ISO バー）の装着が可能です。詳しくはスバル販売店にお問い合わせください。

- ISO-FIX 方式において本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートは、固定バー（ISOバー）を使用して固定することができます。

※チャイルドシート固定専用バー（ISOバー）を使用し固定する乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシート（本車両用に認可取得）は、スバル販売店より発売しております。

チャイルドシートの取り付けかた（例）（テザーベルト式以外の場合）

チャイルドシートの詳しい取り付け、取り外しかたについては、商品添付の取扱説明書を併せて、ご覧ください。

①シートクッションと背当てのすき間を少し広げISOバーの位置を確認します。

②ベースシートを取り付けます。

③乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートをベースシートに装着します。

④乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを軽くゆさぶり、確実にロック（固定）されていることを確認します。

⚠ 警告

乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを取り付ける際、固定専用バー（ISO バー）およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。シートベルトや異物が噛み込むと確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

チャイルドシート固定専用バー（ISOバー）はチャイルドシートを固定する以外に使用しないでください。

チャイルドシートの取り付けかた（例）（テザーベルト式の場合）

チャイルドシートの詳しい取り付け、取り外しかたについては、商品添付の取扱説明書を併せて、ご覧ください。

①チャイルドシートを取り付ける側のリヤシートのピローを外します。（ピロー付車）

②シートクッションと背当てのすき間を少し広げ、ISO バーのフックの位置を確認します。

③ベースシートを取り付けます。

④チャールドシートをベースシートに装着します。
（リヤシート背当てとチャイルドシート上部が接触し取り付けにくいときは、正しく装着できる位置までリクライニングを調整してください。また、ベースシートを正しく装着されていることを確認してください）

⑤テザーベルトがねじれないように背当ての上側を通し、テザーアンカーを ISO バーのテザーフックにかけます。

⑥テザーベルトがピンと張る（5 kg 程度）まで、強く引っ張ってチャイルドシートを固定します。

⑦チャイルドシートを軽く揺さぶり、確実にロック（固定）されていることを確認してください。

⚠ 警告

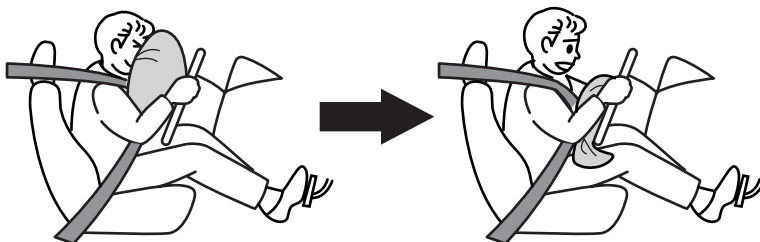
チャイルドシートを取り付ける際、固定専用バー（ISO バー）およびベースシートのロック部にシートベルトや異物のかみ込みがないことを確認してください。シートベルトや異物がかみ込むと確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

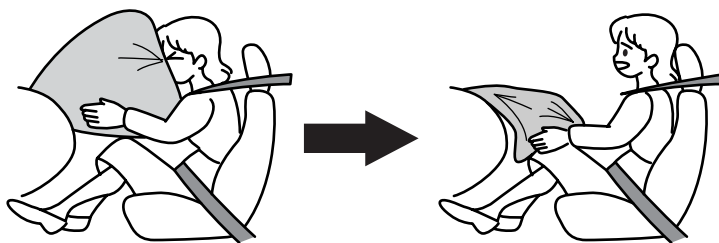
SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。
運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

⚠警告

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。
  SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
  SRS エアバッグシステムはシートベルトを装着しているときだけ、効果を充分発揮します。シートベルトを着用しないと命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−21ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置を調整してください。不適切な乗車姿勢では SRS エアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−14ページ参照

■乗員と SRS エアバッグの間に物を置かないでください

⚠警告

膝の上に物をかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

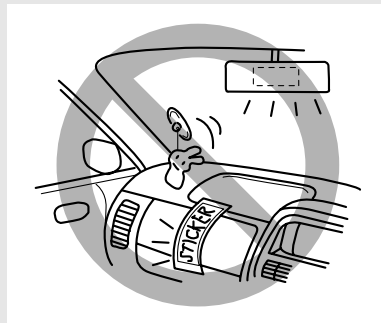
⚠警告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルの SRS エアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

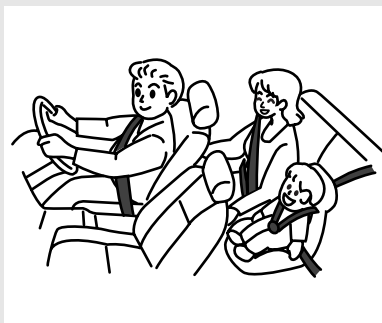
- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。
- 6歳未満のお子さまはスバル純正チャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
  チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。
- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとってもっとも安全な乗車位置です。

- お子さまを SRS エアバッグの前にたせたり、ひざの上で抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。

- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
  6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート（別売）を使用してください。スバルチャイルドシートの使用方法は添付されている取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず後席に取り付けてください。

SRSエアバッグが作動すると

警告

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。
  排出穴からガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRS エアバッグが膨らんだ直後は、SRS エアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRS エアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、２回目以降の衝突では再作動しません。
- SRS　エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。
  ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。残留物（カスなど）が、まれに目または皮ふなどを刺激する場合があります。
- SRS エアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

⚠警告

車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守っていただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。
  車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動になり思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こして重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムを交換する場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響をおよぼし、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前部（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグに影響をおよぼし、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
  無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。
  SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

■運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

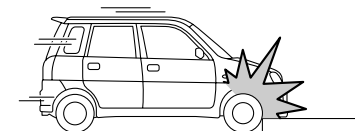
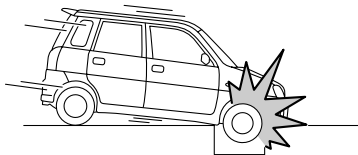
＜作動するとき＞

■次のようなときに作動します

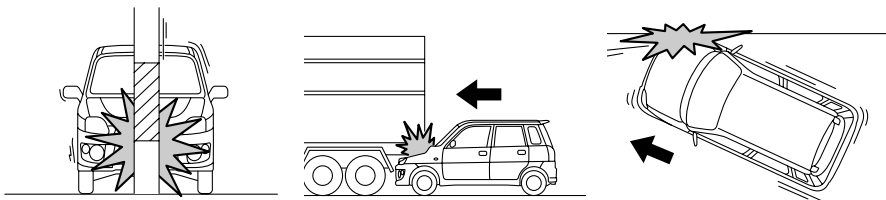
- 20〜30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

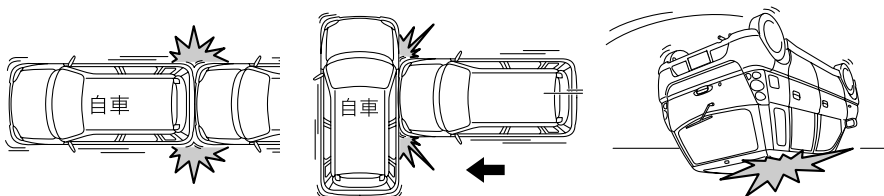
●走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

- 深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき

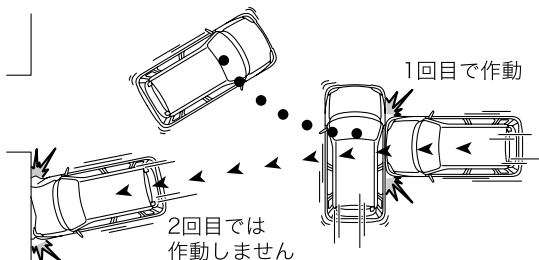
- 縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

<作動しにくいとき>

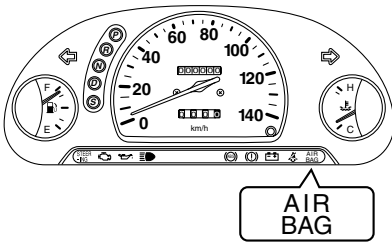
■次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

- 電柱などに衝突したとき
- トラックの荷台にもぐり込んだとき
- 斜め前方への衝突のとき

●また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません

- 後ろから衝突されたとき
- 横方向から衝突されたとき
- 横転や転覆したとき

<作動しないとき>

■次のようなときは作動しません

- 一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

SRSエアバッグ警告灯

警告灯はメーター内に組み込まれており、運転席、助手席の各SRSエアバッグおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。エンジンスイッチを ON にすると点灯し、約６秒後に消灯すれば正常です。

⚠ 警告

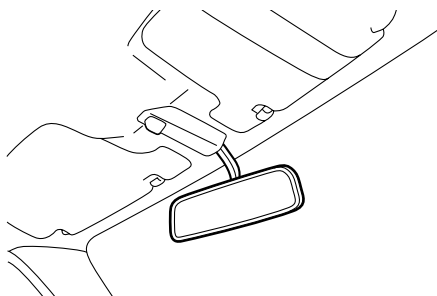
警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRS エアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを ON にしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

ミラーの調整

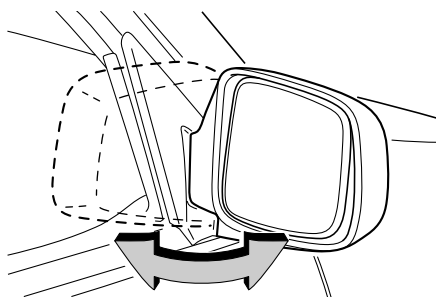
ルームミラー

運転席に正しく座り、ミラー本体を動かして後方視界が充分確認できるように調整します。

⚠ **注意**

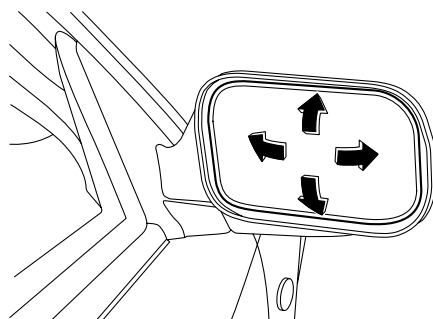
調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

可倒式ドアミラーが備えられています。走行する前に元に戻し（開いた状態）、視界を確認してください。

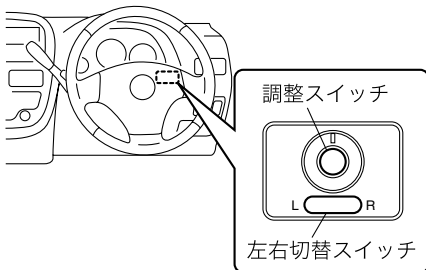
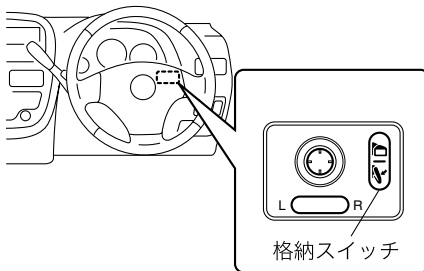
⚠ **注意**

- 調整は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。

■ミラーの角度調整

ドアミラーボディを上下、左右に動かし、後方視界が確認できる位置に調整します。

■電動リモコンドアミラー

エンジンスイッチが ACC または ON のとき、ミラーの調整ができます。

①調整するミラーを選びます。
「左右切替スイッチ」の調整するミラー側を押して切り替えます。

②「調整スイッチ」を上下左右に押して後方が充分確認できる位置に調整します。

■ミラーの格納

エンジンスイッチがACCまたはONのとき左右のミラーを同時に格納できます。

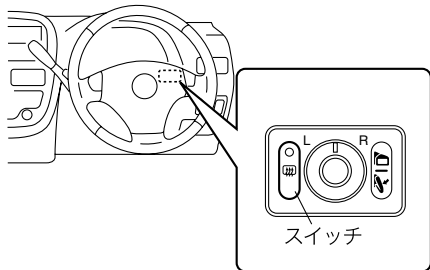
格納するとき…… マークを押します。

元に戻すとき…… マークを押します。

アドバイス

- 格納スイッチは押した側に押されたままになります。使用後は必ずスイッチの反対側を軽く押して中立位置にしてください。
- 寒いときには、作動の途中で止まることがあります。もう1度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇔元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手動で元に戻すとグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

■ヒーテッドドアミラー

ドアミラーについた霜やくもりをとるときに使います。スイッチを押すと作動します。作動中、スイッチ内の表示灯が点灯します。

アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。

3 運転するとき

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

■各位置の働き

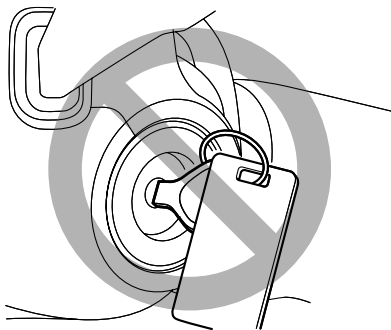
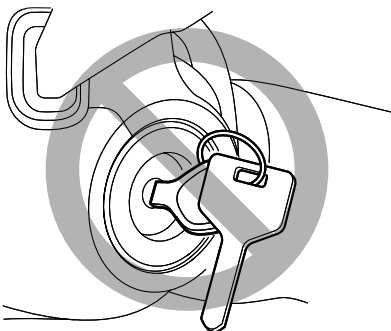
LOCK (ロック)	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
ACC (アクセサリー)	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、シガーライター、アクセサリーソケット
ON (オン)	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート)	エンジンを始動する位置

⚠ 警告

走行中「LOCK」にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。又、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

⇧ アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチを「LOCK」にしてください。
  長時間「ON」にしたり、「ACC」にして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーが「LOCK」から「ACC」に回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

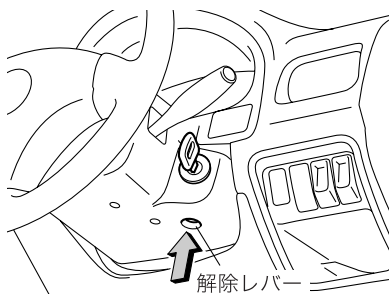
■キーを抜くとき

i-CVT 車は、セレクトレバーをPにしてキーを「LOCK」に回してください。

⇧ アドバイス

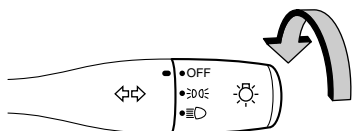
キーが抜けなくなったとき

①セレクトレバーをPレンジに入れ
②ブレーキペダルから足を放して
③エンジンスイッチ下側の穴にある解除レバーを手前に引きながら
④キーをLOCKまで回して抜いてください。

- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。
ただし、エンジンスイッチが ON のときは鳴りません。

ライティングスイッチ

レバー内のスイッチを回すと、次のようにランプが点灯します。

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明
OFF	消灯	
	消灯	点灯
	点灯	

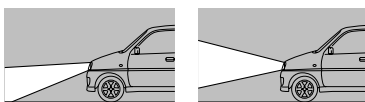
⚠ 注意

ヘッドランプに触らないでください。ヘッドランプを長時間点灯させるとランプが熱くなり、手で触れるとやけどをすることがあります。

アドバイス

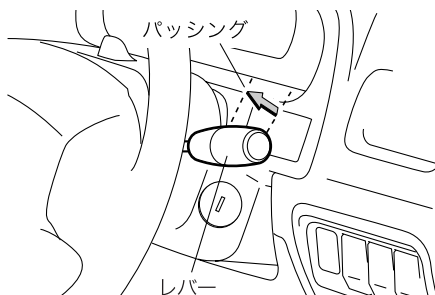
- エンジン停止時、ランプ類を長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりを起こします。
- 停止時、または極低速走行時、ハンドルを操作するとヘッドランプが一瞬暗くなることがありますが異常ではありません。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

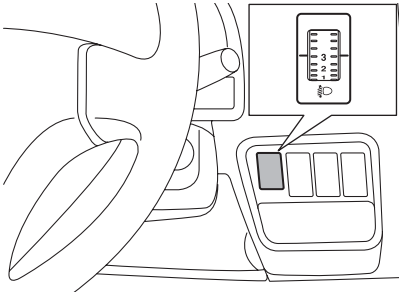
ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に倒すと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。

アドバイス

ヘッドランプが上向きのときはメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。
☆3－15ページ参照

■合図のしかた（パッシング）

ヘッドランプ下向き位置より更にレバーを手前に引くと、レバーを引いている間ヘッドランプの上向きが点灯します。

光軸調整ダイヤル

ヘッドランプの下向き点灯時に使います。エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きが下側になります。

- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にしてダイヤル位置を調整してください。

Aグレード

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名	0名	無
1	-	-	-
2	1名	0名	有※
3	-	-	-

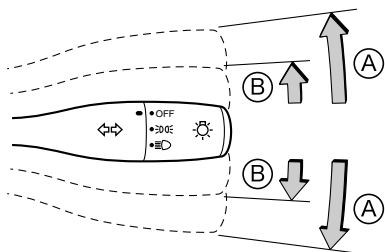
※最大許容重量まで積載した場合

Aグレード以外

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	2名	無
2	2名	2名	有※
3	1名もしくは2名	0名	有※

※最大許容重量まで積載した場合

方向指示レバー

エンジンスイッチがONのとき、レバーを「Ⓐ」の位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。
☆3－15ページ参照

アドバイス

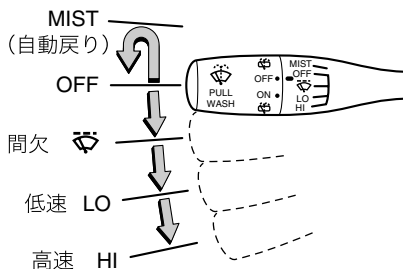
車線変更の合図をするには、レバーを「Ⓑ」の位置で軽く押さえていると方向指示器と表示灯が点滅します。手を放すと消灯します。

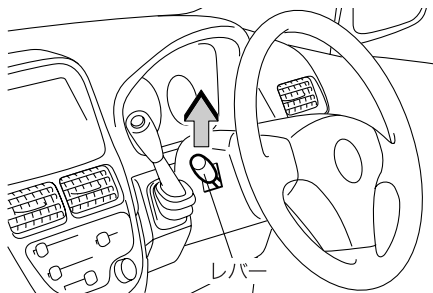
ワイパー&ウォッシャースイッチ

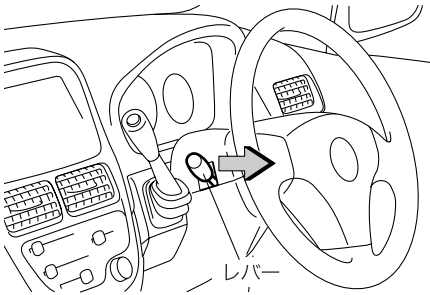
エンジンスイッチがACCまたはONのとき使用できます。

■フロントワイパー

●ワイパーの作動

レバーを図のように操作すると作動します。

●ミストスイッチ（MIST）

レバーを上にあげている間、ワイパーが作動します。

●フロントウォッシャーの作動

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射します。また、連動してワイパーも作動します。

⚠ 注意

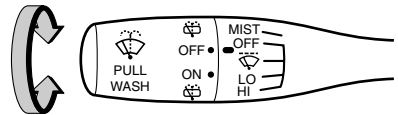
寒冷地で使用する場合、次のことをお守りください。

- ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。ウォッシャー液が凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

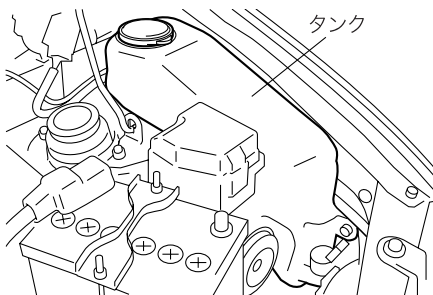
☆5−3ページ参照

■リヤワイパー・ウォッシャー

レバー内のスイッチを回すと作動します。

	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を放すとOFFに戻ります。
OFF	停止
ON	連続で作動
	ウォッシャー液が噴射します。手を放すとONに戻ります。

■ウォッシャー液の補充

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。

ボンネットを開けると車体の右側にタンクがあります。フロントとリヤの共用になっています。

⚠ 注意

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないよう注意してください。ポンプがつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。
- 降雪時、寒冷時には、ガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4−4ページ参照

- ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいとタンク内で凍りつくことがあります。

☆5−3ページ参照

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを使わないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因になります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押しつづけるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残りができるときにはブレードのラバーを交換してください。

☆7−5ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに貼りつくことを防止します。
- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをLOCKの位置にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

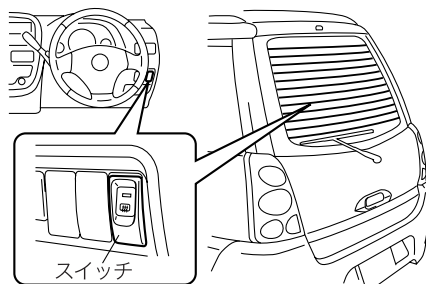
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついている場合に、ワイパーを作動し続けるとワイパーモーターが故障するおそれがあります。ワイパーがガラスに凍りついたときには、デフロスターまたはリヤデフォッガーでガラスを暖めてください。

☆4−6ページ参照

- ウォッシャーノズル噴出口にワックス等をつけないよう注意してください。ノズルのつまりの原因となります。
- ゴミ、ワックスなどがつまる等、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

リヤウインドゥデフォッガー(曇り取り)スイッチ

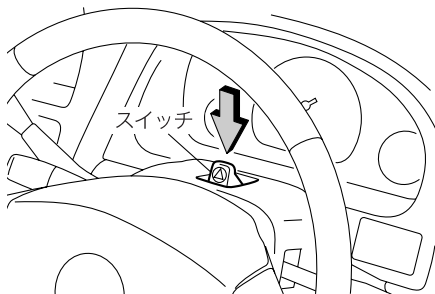
リヤウインドゥガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。
エンジンスイッチがONのとき使用できます。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。

⚠ 注意

リヤウインドゥの曇りが取れたらスイッチを押し、OFF にしてください。バッテリー上がりの原因になります。

アドバイス

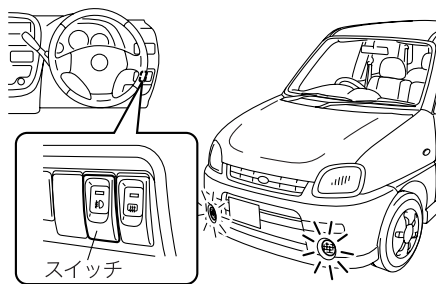
- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラスの内側の清掃は熱線を切らないよう、水を含ませた柔らかい布で熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使用しないでください。

非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ

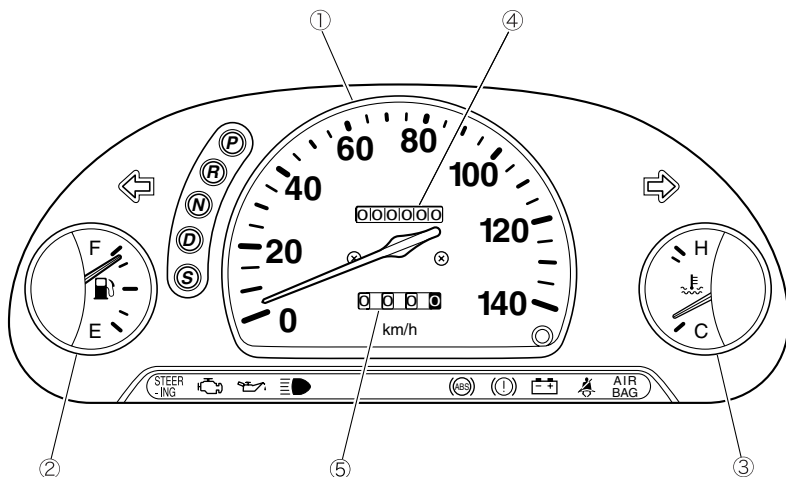
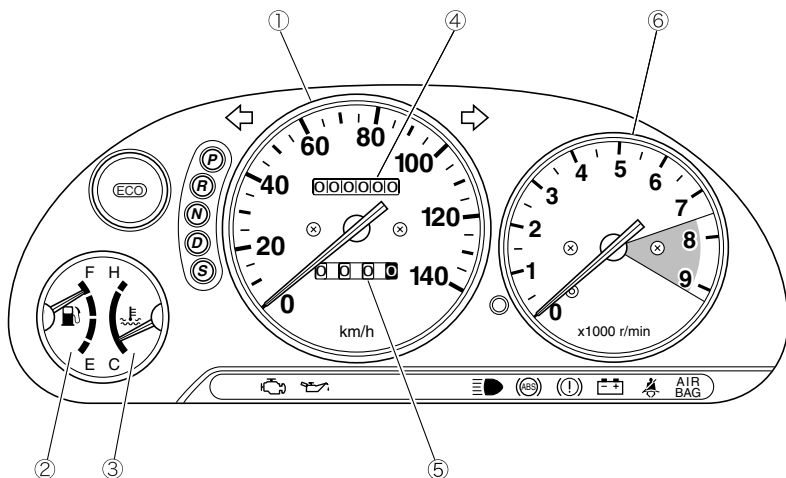
エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。やむを得ず路上駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使用します。スイッチを押すと全ての方向指示器が点滅します。

アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の停車にご利用ください。

フォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONで、ライティングスイッチが ≡00≡ または ≡D のとき、スイッチを押すとフォグランプが点灯します。
点灯中はスイッチ内のランプ(グリーン)が点灯します。
フォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを押してください。
消灯時はスイッチ内のランプが消灯します。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

＜標準＞

＜タコメーター付＞

①スピードメーター
②燃料計
③水温計
④オドメーター
⑤トリップカウンター
⑥タコメーター

※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。

①スピードメーター
車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。スピードを出し過ぎないようにしてください。

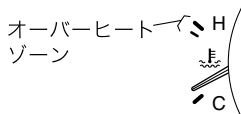
②燃料計
エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。
指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
☆2−12ページ参照

 注意

燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。
☆1−22ページ参照

アドバイス

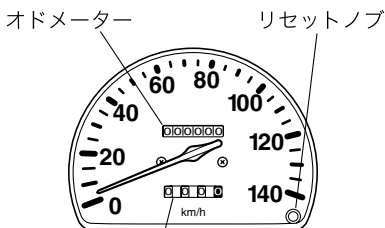
- エンジンスイッチが切れているとき温度変化や振動で指針が若干変わる場合があります。
- 給油後エンジンスイッチを「ON」にしてから指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため指針が振れることがあります。

③水温計
エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。
走行中はオーバーヒートゾーンより下側を指すのが正常です。

注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。
そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因になります。

④オドメーター（積算距離計）
走った総距離をkmで示します。

⑤トリップカウンター（区間距離計）
ある区間に走った距離を知りたいときに使います。右端の数字は100 m単位です。

●0に戻すときは
リセットノブを押してください。

⑥タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

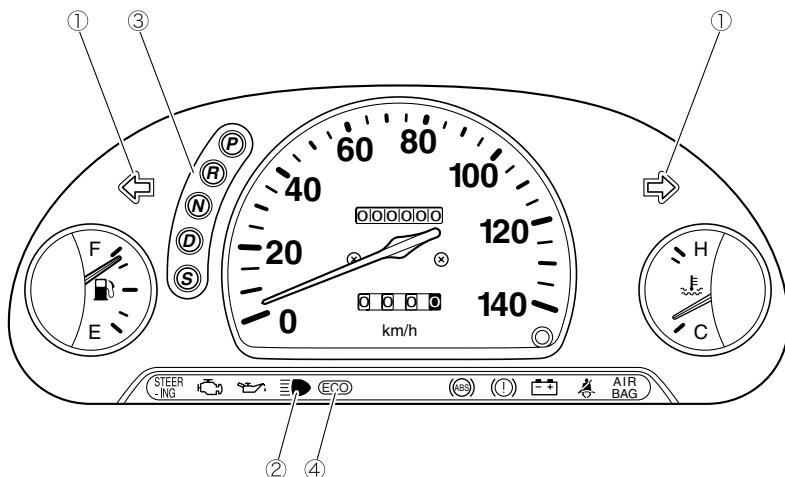
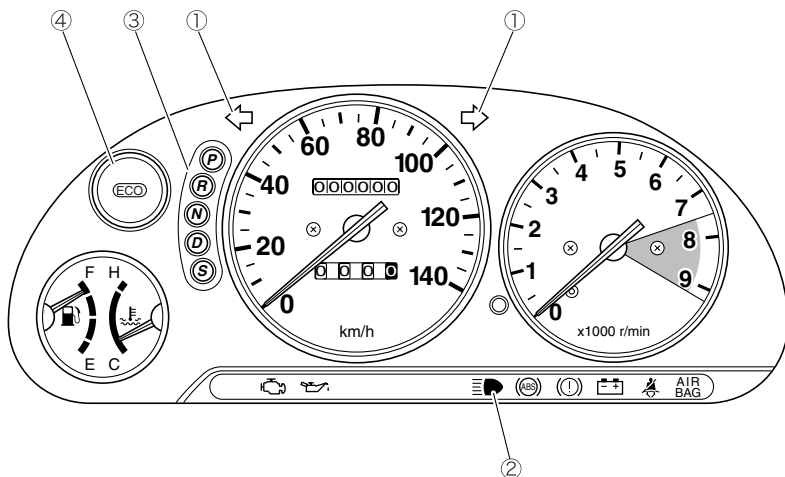
注意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- エンジンスイッチを操作した瞬間、指針が振れることがありますが、異常ではありません。
- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にステアリングを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

表 示 灯

＜標準＞

＜タコメーター付＞

①方向指示表示灯
②ハイビーム／パッシング表示灯
③セレクトポジション表示灯
　(i-CVT車の装備)
④エコモード表示灯
　(エコモード付i-CVT車の装備)

※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。

①方向指示表示灯
方向指示器、非常点滅灯を作動させると点滅します。

アドバイス

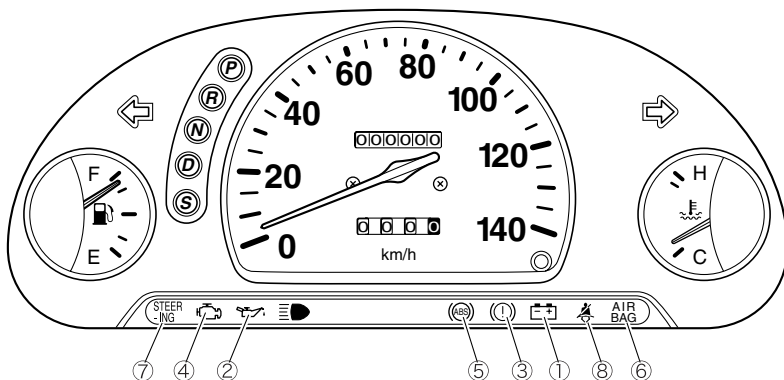
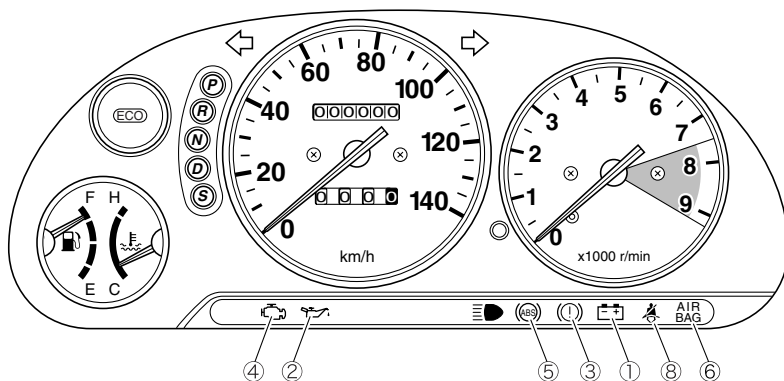
電球が切れたときやワット数の違った電球を使うと点滅の早さが異常になります。
すみやかに点検し、異常のある電球を交換してください。
☆7−11ページ参照

②ハイビーム／パッシング表示灯
ヘッドランプが上向きのとき点灯します。
パッシング時も点灯します。
☆3−4ページ参照

③セレクトポジション表示灯（i-CVT車の装備）
現在選択しているセレクトレバー位置を表示します。
☆3−24ページ参照

④エコモード表示灯（エコモード付i-CVT車の装備）
エコモード選択時点灯します。
☆3−30ページ参照

警　告　灯

＜標準＞

＜タコメーター付＞

①充電警告灯
②オイルプレッシャー警告灯
③ブレーキ警告灯
④エンジン警告灯
⑤ABS警告灯
⑥SRSエアバッグ警告灯
⑦ステアリング制御警告灯
⑧シートベルト警告灯
※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。

①充電警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

②オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯したときは
走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで点検してください。
☆別冊「メンテナンスノート」参照

③ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- EBD(エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション)の電子制御システムに異常があるとき
  EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3－34ページ参照

⚠ 注意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
- ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、ABS(アンチロックブレーキシステム)に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

④エンジン警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムまたはi-CVT電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

点灯したときは
エンジン回転中に点灯したときは、エンジンまたはi-CVT電子制御システムに異常があります。
急加速、急発進、高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

⑤ABS警告灯

ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。
エンジンスイッチをONにしたとき、約2秒間点灯し消灯するのが正常です。
☆3−33ページ参照

⚠ 注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。
- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速約10km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

⑥SRSエアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約6秒間点灯し、消灯するのが正常です。
運転席・助手席エアバッグ、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

⚠ 警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

⑦ステアリング制御警告灯

エンジンスイッチ ON で点灯し、エンジン始動後、約２秒後に、消灯するのが正常です。
エンジン回転中､パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。
気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

次の場合に警告灯が点灯することがあります。

- 停車中に必要以上の空吹かしを続けた時、または外気温度が冷えている場合（0 ℃以下が目安ですが若干の差があります）で、約５分間の暖機運転後に、必要以上にエンジン回転数を上げると点灯することがあります。（点灯している状態ではハンドル操作力は重くなります）しかし、走行を開始すると（車速5 km/h以上）、警告灯は消え、正常の操作力になります。

次の場合にハンドル操作が重くなることがあります。

- 雪道などの、滑りやすい路面を走行中、後輪をロックさせた時。
- エンジン始動直後５分間、車両停止状態で、必要以上にエンジン回転数を上げた時。

いずれの場合も、走行を開始すると（車速５ km/h 以上）、正常の操作力になります。

⑧シートベルト警告灯

エンジンスイッチが ON のとき、運転者がシートベルトを装着していないときに点灯します。
運転席シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むと消えます。
☆2－25ページ参照

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止

エンジンをかける前に安全を確かめます。

⚠ 警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠ 注意

- 窓越しからのエンジン始動は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒間以上スターターを回し続けないでください。
  スターターの故障の原因になります。
  かからないときは10秒間放置してからもう一度スターターを回します。
- エンジンのかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。

アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまで長めにスターターを回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンがかかるまでスターターを回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱいに踏み込んでスターターを長めに回し、エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を放してください。
  それでもかからないときは、一旦エンジンスイッチをOFFに戻し、約10秒間放置した後、もう一度アクセルペダルを踏まずにスターターを回してください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドゥデフォッガースイッチを OFF にしたほうが、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合があります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキをかけます。
②チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
②クラッチペダルをいっぱいに踏みます。
③アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

アドバイス

＜クラッチスタートシステム＞
マニュアル車は誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（i-CVT車）

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキをかけます。
②セレクトレバーがパーキング位置であることを確認します。
（ニュートラルでも始動できますが、安全のためパーキングで始動してください。）

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
②アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

■エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

アドバイス

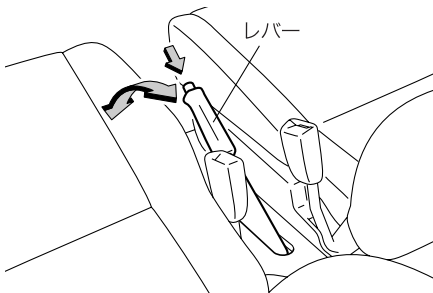
- 車両が停止した直後はエンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで、時間が多少かかることがあります。
- エンジン回転を上げてからエンジンスイッチを切ったり、スイッチを切ってからアクセルペダルを踏み込むことはしないでください。
  未燃焼ガスが多量に排出され、触媒への悪影響や排気管より大きな音がすることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」が点灯していることを確認してください。

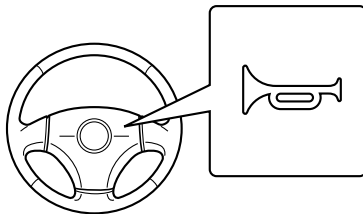
■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。

⚠ 注意

- 駐車ブレーキは後輪に装着されています。
- 駐車するときは車が動き出さないように確実に駐車ブレーキをかけてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。
  ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

☆3−17ページ参照

ホーンスイッチ

ハンドル中央のラッパマークのあるパッド面を押すとホーンが鳴ります。

⚠ 注意

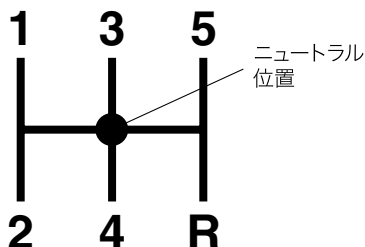
精密機械が入っています。強い衝撃などを加えないでください。

アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

チェンジレバーの操作

チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作してください。
＜マニュアル車＞

⚠ 注意

- “R”に入れるときは、車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転数まで下がってから入れてください。
  トランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。
- クラッチペダルはいっぱいに踏み込んでください。踏み込みが不十分の場合、クラッチの早期摩耗やトランスミッションギヤ鳴きなどの原因になります。
- 5速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5”→“R”へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。

アドバイス

ギヤシフトが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

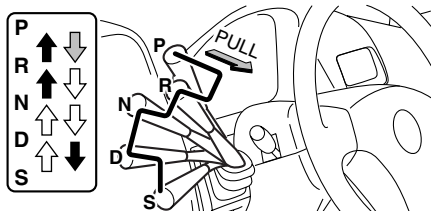
i-CVT車の正しい運転のしかた

セレクトレバーの操作

■各レバー位置での働き

P パーキング（パーキング）	**駐車およびエンジン始動位置**	• 車輪が固定されます。駐車のとき必ず駐車ブレーキをかけて、Pにしてください。 • Pのみでエンジンスイッチより、キーを抜くことができます。
R リバース（リバース）	**後退位置**	• Rにするとブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。
N ニュートラル（ニュートラル）	**中立位置**	
D ドライブ（ドライブ）	**通常走行位置**	• 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
S スロープ（スロープ）	**登・降坂路走行位置**	• エンジンブレーキが必要なとき、追い越し、山岳走行を行うときに使用します。 この位置でも自動変速します。

※i-CVT車の特徴と運転上の注意をご覧ください。（1－9 ページ）

■セレクトレバーの操作方法

⇨は、ブレーキを踏んだまま、手前に引いて動かす。
➡は、手前に引いて動かす。
⇨は、そのまま動かす。

⚠ 警告

発進時は、絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- [P]でエンジンをかけてください。[N]でもエンジンはかかりますが、安全のため[P]でかけてください。
- [P]・[R]に入れるときや前後進を繰り返すときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。車が止まっていないとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 切り返しのとき、[D]→[R]、[R]→[D]と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- 後退した後は、すぐに[R]から[N]に戻す習慣をつけてください。
- イラスト中の白抜き矢印（⇧⇩）レバーを引かずに動かす習慣をつけてください。
  いつもレバーを引いて操作すると意に反して[P][R][S]に入れてしまうおそれがあります。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため、各位置ごとに節度をつけています。確実に行ってください。
- [P]のときは、レバーを引いたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが LOCK のときは、ブレーキペダルを踏んでも[P]から他の位置に切り替えられません。
- [P]レンジから[R]レンジにシフトチェンジするとき、急な操作をすると[D]レンジに入ることがあります。ゆっくり操作して、ブザー音およびメーター内のセレクトインジケーターの[R]表示を確認してからアクセルペダルを踏んでください。

☆1−10ページ参照

- i-CVT 車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。（暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。）

運　転　手　順

■エンジンをかける前に

①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

☆2−14ページ参照

②アクセルペダルの位置を確認します。

③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。（踏み間違いは事故につながるおそれがあります）

■エンジン始動

☆3−2ページ参照

①駐車ブレーキを確認します。
（確実に駐車ブレーキがかけてあること）

②セレクトレバーがPであることを確認します。

注意

Nレンジでも始動できますが、安全のためPレンジで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んだまま
（アクセルペダルは踏まないこと）

④エンジンスイッチを START に回し、エンジンを始動します。

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

①ブレーキペダルを右足で踏んだまま

警告

アクセルペダルを踏まないでブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。
☆1−9ページ参照

②セレクトレバーをDレンジ（前進）またはRレンジ（後退）に入れます。
③セレクトレバーの位置をメーター内のセレクトインジケーターで確認します。
④駐車ブレーキを解除します。
⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み替えゆっくりと踏みます。

⚠ 注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時などはアイドリング回転が高くなりクリープ現象が強くなります。とくにしっかりブレーキペダルを踏んでください。

☆1−9ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し
①ハンドブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを放し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
②車が動き出す感覚を確認しながら、ハンドブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：
Dレンジで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：
アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。キックダウンして急加速できます。
☆1－9ページ参照

下り坂では：
Sレンジへ切り替えて、エンジンブレーキを併用してください。
☆1－15ページ参照

⚠ 警告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

- 急発進急加速など急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 極低温時の後退時にエンジン回転数が一定回転以上上がらないことがありますが異常ではありません。

■停車

①走行レンジのままブレーキペダルを確実に踏んでおきます。

⚠ 注意

エンジン始動直後やエアコン作動時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ現象が強くなります。とくにしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

②必要に応じて駐車ブレーキをかけます。
③長時間、停車するときはNレンジにします。また、駐車ブレーキをかけます。
④停車後の発進
セレクトレバーの位置をメーター内のセレクトインジケーターで確認して発進します。

⚠ 注意

- 空吹かししないでください。P・N以外に入っていると、思わぬ急発進の原因となります。
- エンジンをかけ、停車中にセレクトレバーを動かすときは、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、登り坂でP・N以外に入れた状態で、アクセルを吹かしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因になります。

- 急な登り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- セレクトレバーが[P]・[N]以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルをとくにしっかりと踏み込んでください。

アドバイス

急停止時、車両が停止する寸前でエンジン回転数が上昇する場合がありますが異常ではありません。

■駐車

①車を完全に止めます。

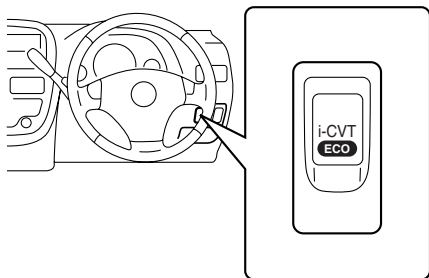
⚠ 注意

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

②ブレーキペダルを踏んだままの状態で、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
③セレクトレバーを[P]に入れます。
セレクトレバーが[P]のときは、車が動き出す心配がなくより安全です。
④エンジンを止めます。
☆1－19ページ参照

⚠ 注意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。

エコスイッチ

スイッチを押すとメーター内の「ECO」が点灯し、エコモードを選択します。走行条件に応じて選択してください。スイッチが押されていないときはノーマルモードです。

アドバイス

郊外や市街地など、あまりエンジンの力を必要としないときに選択してください。

AWD※車の運転

運転するとき

※AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。
プレオにはビスカス式フルタイム AWD 機構を採用しています。
AWD システムを充分理解してご使用ください。

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中などに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- 過酷なラフロード走行はしないでください。この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD 車より安定した性能を発揮しますが急ハンドル、急ブレーキでは2WD車と差がありません。
  カーブや下り坂、雪道や凍結路など滑りやすい路面は充分にスピードを落とし安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

取り扱いについて

⚠ 警告

- ４輪のうち１輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - ・4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ・応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。

☆6－6、8－6ページ参照

- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ・4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

  なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着した場合、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。
- タイヤチェーンは非常のときのみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後のバランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h 以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

☆6−12ページ参照

ブレーキ

ABS：アンチロックブレーキシステム

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキをしっかり強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABS の電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
  ABSが付いていない車両と同様に充分な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 下記の道路などでABSが作動した場合、ABSがついていない車よりも制動距離が長くなることがあります。
  - ・マンホール、工事現場などの滑りやすい路面
  - ・道路のつなぎ目などの段差
  - ・凹凸路、石畳などの悪路
  - ・下り坂での旋回
  - ・路肩に草や砂利が多い道路
  - ・砂利道
  - ・雪道（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）
- タイヤチェーン装着時および冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）では ABS の付いていない車両に比べ制動距離が長くなることがあり、車間距離が不足していると事故につながるおそれがあります。
  とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- ABS は車速が約 10 km/h 以下になると作動せず、普通ブレーキと同じ作動になります。

アドバイス

ABS が作動すると、ハンドル操作のフィーリングが若干変わります。

■振動や音について

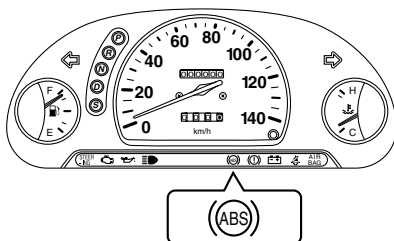
- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
  これは ABS が作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- ABS作動時、車両が停止する寸前でエンジン回転が一時的に上昇することがありますが異常ではありません。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
  - ・エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  - ・ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルに ABS が作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにしたとき約2秒間点灯し、その後に消灯するのが正常です。

⚠ 注意

警告灯が下記の場合はシステムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき
  なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしての作動はしません）

アドバイス

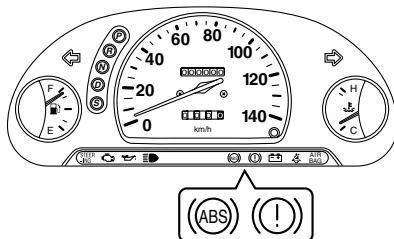
警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- エンジン始動後に点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。

■EBD（エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション）

ブレーキをかけたときや積載状況による前後輪の荷重変化、また、強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、フロントブレーキに対するリヤブレーキの液圧をコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

⚠ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯が点灯します。
点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
EBDシステムに異常があるときは、後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3−17ページ参照

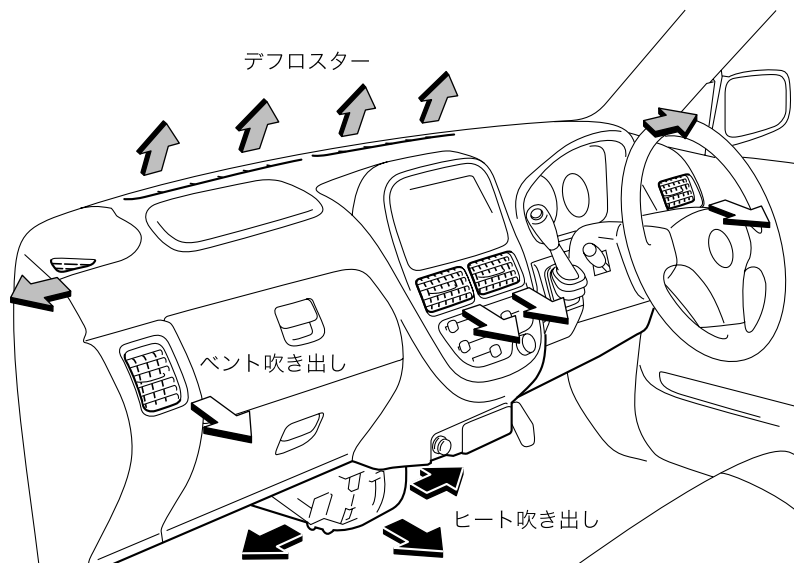
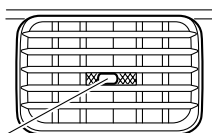
ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルの踏む力を軽減する装置です。
エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などで、ブレーキブースターの圧力が不足している場合、ブレーキペダルを踏むとき（減速、停止する場合）、通常よりも強い力が必要になります。

室内装備品の使いかた

エアコン

吹き出し口の調整

吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。

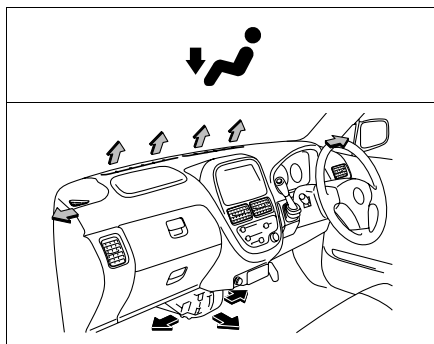
●上半身に送風したいとき

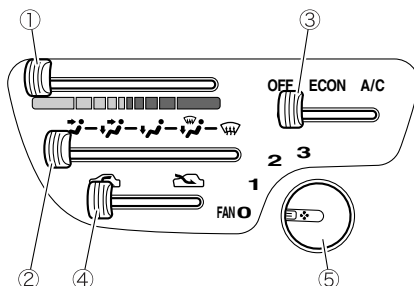
●上半身と足元に送風したいとき

●足元に送風したいとき

※フロントガラスに少し風を送ります。

●足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

●窓ガラスの曇りを取りたいとき

マニュアルエアコン

■操作パネルの使いかた

①温度調整レバー

送風温度を調整します。
右に動かすと送風温度が高くなります。
無段階に温度の選択ができます。

②吹き出し口切り替えレバー

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。(4－3ページ参照)

③エアコンスイッチ

エンジンをかけているとき、風量調整ダイヤルが「0」以外のときスイッチを「ECON」または「A/C」にするとエアコン（冷房／除湿機能）が作動します。スイッチを「OFF」するか、風量調整ダイヤルを「0」にすると止まります。

- ECONスイッチ
  ECONの場合、コンプレッサの作動時間をコントロールして省エネ運転になります。とくに春先等の使用をお奨めします。

アドバイス

- 次の場合、エアコンは作動しません。
  - ・室内の温度が低いとき
  - ・外気温度が低いとき
  - ・急な坂道を登っているとき
  - ・急加速中
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるためアイドリング回転数が高くなります。i-CVT 車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
- エアコンは各部を潤滑するため月に2、3回程度作動させてください。
- 冷えない場合には冷媒不足も考えられますのでスバル販売店で点検を受けてください。

④内外気切り替えレバー

レバーを右側に動かすと外気導入になり左側に動かすと内気循環になります。

⚠ 注意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使用してください。内気循環で長時間使用すると、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂がある場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
また、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

⑤風量調整ダイヤル

風の強さを3段階に調整できます。数字が大きくなるほど強くなり、「0」では止まります。

■エアコンの使いかた

	② 吹き出し口 切り替え	⑤ 風量調整	③ エアコン ON・OFF	① 温度調整	④ 内外気 切り替え	アドバイス
冷房		希望位置	ON (ECON)	希望位置 (中間より左側)		• 早く冷やしたいときは ④を内気循環にしてください 冷房効果が外気導入に比べて向上します
暖房		希望位置	ON (ECON) または OFF	希望位置 (中間より右側)		• ウインドゥガラスにも少し送風されますが、これはウインドゥガラスの曇りを防止するためのものです
除湿暖房	または	希望位置	ON	希望位置 (中間)		• 温度調整レバーで室内温度を調整してください • 内気循環ではエアコン作動状態でもガラスが曇ったり、室内に結露が発生しやすくなりますので、外気導入にしてください
頭寒足熱	または	希望位置	ON (ECON) または OFF	希望位置 (中間)		• 温度調整レバーを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります
曇り除去		希望位置	ON	中間より右側		• 夏期において曇りを除去する場合、①は中間より左側でご使用ください。また、外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと窓の外側が曇る場合があります。このときは⑤を「0」にするか、温度調整レバーを右に動かしてください
換気		希望位置	OFF	希望位置		• 顔部が熱い場合は、温度調整レバーで左に１～２クリック動かしてください

アドバイス

上手にエアコンを使うため

- 停車中の冷房効果を上げるためアイドリング回転数が高くなります。i-CVT車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
  駐車中は駐車ブレーキ（i-CVT車はセレクトレバーを[P]）を引いてください。
- 炎天下に駐車したときは、エアコンを使う前にウインドゥガラスを全開にして熱気を逃がしてください。
- 室内のにおいは消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときやタバコを吸うときは外気導入で窓を開けて換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置に付着してにおうことがあります。
- 目が痛くなったときは、外気導入にしてください。冷房中に乾燥気味になり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。
- 適度に温度を調整してください。冷え過ぎは身体に害があります。健康上、外気温度と室内温度の差は5～6 ℃が適温です。
- エアコンは各部を潤滑するため月に3回程度作動させてください。
- 冷えない場合には冷媒不足も考えられますのでスバル販売店で点検を受けてください。

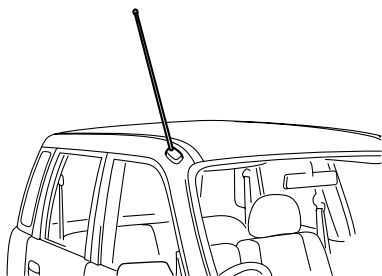
オーディオシステム

⚠ **注意**

安全運転のために

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- できるだけ車が止まっているときにラジオ・オーディオを操作してください。

アンテナ

ラジオを聞くときはアンテナの先端をいっぱいまで伸ばしてください。

⚠ **注意**

自動洗車機や屋根の低いところに入るときは、アンテナを格納してください。伸ばしたままだとアンテナが折れる場合があります。

カセットテープについて

- ヘッド周辺は汚れやすいので1か月に1回程度は、クリーニングテープでクリーニングしてください。
- C120（120分テープ）はテープが非常に薄いため伸びたり、プレーヤーに巻きついたりして使用不能の原因になります。使用しないでください。
- ラベルのはがれたテープを使用したり、テープをデッキに入れたまま放置するのはお止めください。回転不良やテープが取り出せなくなる場合があります。
- プレーヤーにテープが巻き込まれないように、エンピツなどでたるみを取ってから差し込んでください。
- ケースに入れ、日の当たらない場所を選んで保管してください。
  カセットテープは高温多湿、直射日光、ほこり、強い磁気を嫌います。

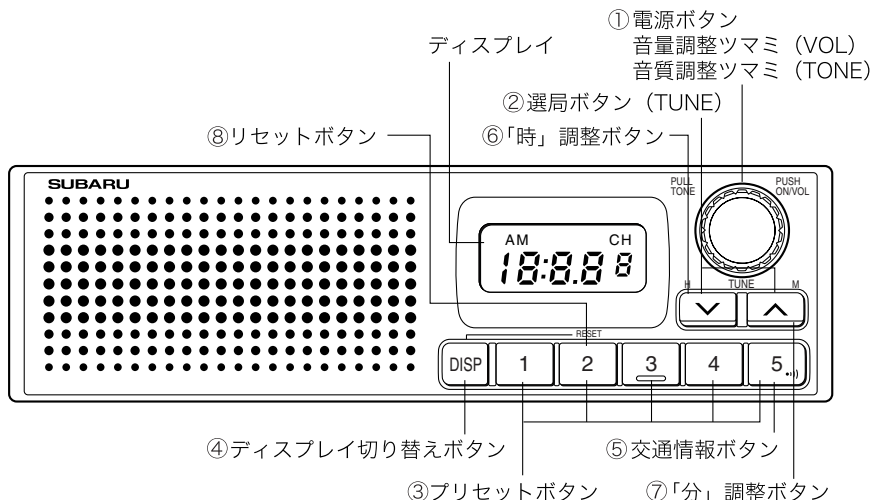
CDについて

- 下図のマークがついている音楽CDを使ってください。下図のマークがないものは使えません。

400335

- 大きい傷、変形、ヒビ等のあるディスクやハート型などの特殊形状の CD は使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 寒いときや雨天のときは、プレーヤー内に露が生じ、正常に作動しないことがあります。この場合 CD を取り出し、しばらく待ってから再度CDを挿入してください。
- 炎天下に長時間駐車した後などはプレーヤーの温度が高くなり、正常に作動しないことがあります。温度が下がるまでしばらく待ってください。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びすることがあります。
- ケースからディスクを取り出す場合、ケース中心部を押し、ディスクの両端を持ってください。また、ディスク面に直接触れると音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター吹き出し口などの近くに置かないでください。ディスクが変形して使用できなくなります。
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどで傷をつけたりしないでください。
- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で中心から外側に向かって拭いてください。硬い布やシンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

AM電子チューナー

ラジオを聞くとき

■電源
①を押すごとに電源がON、OFFします。
（エンジンスイッチがACCまたはONのとき）

■音量調整（VOL）
①を右に回す：音が大きくなります
①を左に回す：音が小さくなります

■音質調整（TONE）
①のツマミを引き出して調整します。
右に回す：高音が強くなります
左に回す：高音が弱くなります

■選局（TUNE）
「自動選局」「手動選局」「ワンタッチ選局」の3つの方法があります。

●自動選局
②のボタンを0.5秒以上押し続けます。自動的に選局します。
右側を押す：周波数が上がります
左側を押す：周波数が下がります

●手動選局
②のボタンの左右いずれかを軽く触れます。9 kHzごとに周波数が切り替わります。

●ワンタッチ選局
③のボタンのいずれかを押します。あらかじめセットしてある放送局を受信します。AM放送5局が記憶できます。

■放送局の記憶方法

1. 選局します。
2. ディスプレイを周波数表示にします。
3. ③のボタンのいずれかを選び、2 秒以上押し続けると記憶されます。
4. 同じように全てのボタンに記憶させます。

アドバイス

バッテリーの端子を外したときやヒューズ切れのときは記憶が消えます。

■交通情報を聞くには

(③のボタンの # 5 に交通情報局が記憶されているとき)

⑤のボタンを押すと交通情報 (1620 kHz) を受信します。

アドバイス

- ⑤のボタンは5つ目のワンタッチ選局ボタンとしても使えます。
- 新車時には1620 kHzが記憶されています。
- バッテリーの端子を外したときやヒューズ切れのときには1620 kHzになります。

■時計を合わせるには

●時・分の調整

④のボタンを押しながら⑥のボタンまたは⑦のボタンを押して時・分を調整します。

⑥のボタン：「時」の調整

⑦のボタン：「分」の調整

●時報に合わせる

時報と同時に④のボタンを押しながら⑧のボタンを押します。

次のように調整されます。

11：30〜12：29 →12：00

12：30〜1：29　→1：00

アドバイス

バッテリーを再び接続したときは、表示が「12：00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

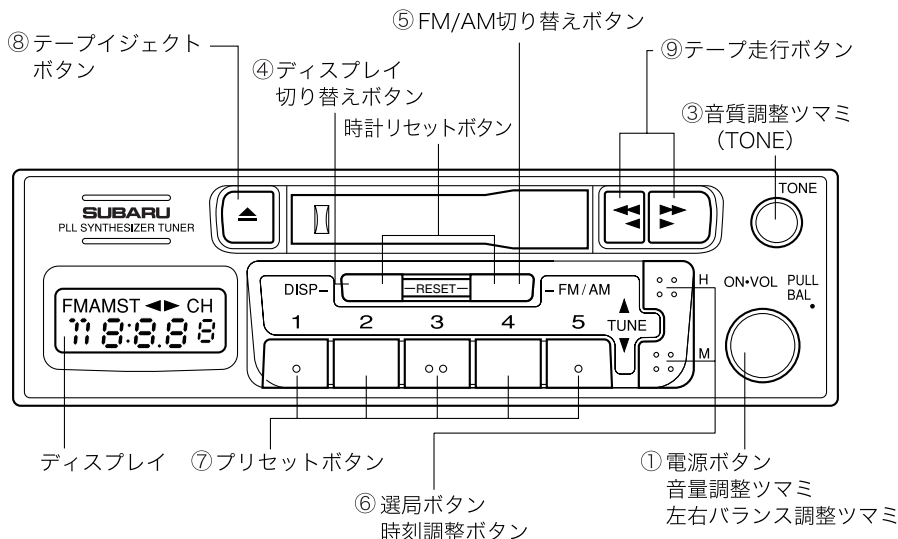
■ディスプレイ表示の切り替え

ディスプレイには時刻が表示されています。

- 電源を入れたときや選局ボタンを押すと5秒間周波数が表示されます。
- エンジンスイッチをACCまたはONにすると照明がつきます。

ラジオ電源が ON のとき④のボタンを押すごとに時計表示と周波数表示の切り替えができます。

AM/FM電子チューナー・カセットデッキ✽

共　通　操　作

■電源
①を押すごとに電源がON・OFFします。

■音量調整（VOL）
①を回して調整します。
右に回す：音が大きくなります
左に回す：音が小さくなります

■左右バランスを調整するとき
①のボタンを引き出して調整します。
右に回す：左側スピーカーの音が小さくなります
左に回す：右側スピーカーの音が小さくなります

■音質調整（TONE）
③のツマミを回して調整します。
右に回す：高音が強くなります
左に回す：高音が弱くなります

■時計を合わせるには
ラジオ電源ONのとき、④のボタンを押しながら⑥のボタンを押して時・分を調整します。
⑥のボタンのH側を押す：「時」の調整
⑥のボタンのM側を押す：「分」の調整

●時報に合わせる
時報と同時に④のボタンを押しながら⑤のボタンを押します。
次のように調整されます。
11：30〜12：29 →12：00
12：30〜1：29 →1：00

アドバイス

バッテリーを再び接続したときは、表示が「12：00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

■表示の切り替え

ラジオ電源 ON 時④のボタンを押すごとに時計表示優先モードと機能表示モードの切り替えができます。

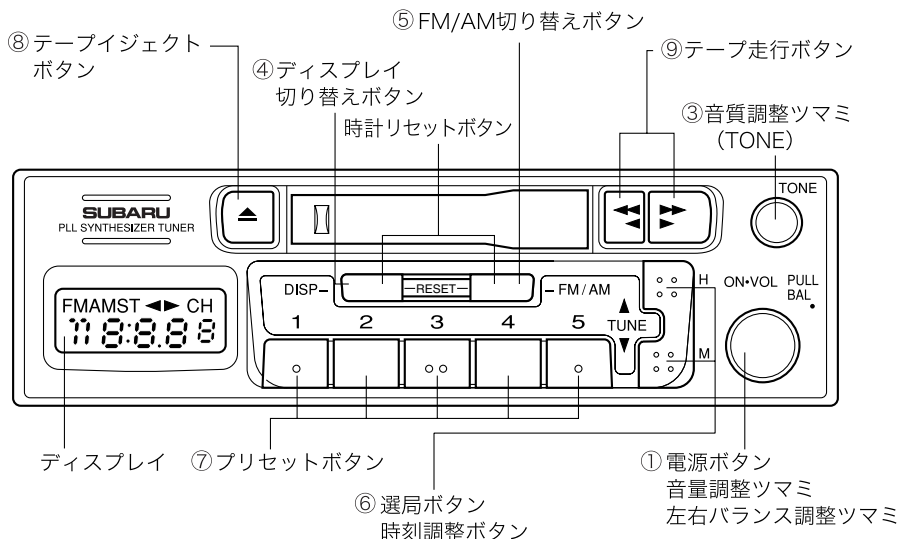
●機能表示モード

各モードの状態のみ表示するモードです。機能表示モードのとき④のボタンを押すと時計表示になり、以降時計表示優先モードになります。

●時計表示優先モード

各操作を行うと、約5秒間その操作に応じた表示を行い、その後時計表示に戻ります。

モード	表　　示	
	機能表示	時計表示優先時
ラジオ電源OFF	消灯	時計表示
ラジオ	周波数表示	時計表示
テープ	TAPE	時計表示

ラジオを聞くとき

■FM/AMを受信するとき

1.電源を入れます。
2.⑤のボタンを押します。
ディスプレイにFMまたはAMが表示されます。

■選局（TUNE）

「自動選局」「手動選局」「ワンタッチ選局」の3つの方法があります。

●自動選局

⑥のボタンを0.5秒以上押し続けます。
自動的に選局します。
上側を押す：周波数が高くなります
下側を押す：周波数が低くなります

●手動選局

⑥のボタンを軽く押します。
一定のピッチで切り替わります。

●ワンタッチ選局

⑦のボタンのいずれかを押します。あらかじめセットしてある放送局を受信します。

■放送局の記憶方法

FM放送5局、AM放送5局が記憶できます。
1.選局します。
2.ディスプレイを周波数表示にします。
3.⑦のボタンのいずれかを選び、2秒以上押し続けます。記憶されると、ディスプレイにチャンネル番号が表示されます。
4.同じように全てのボタンに記憶させせます。

バッテリーの端子を外したときやヒューズ切れのときは記憶が消えます。

カセットテープを聞くとき

■テープを聞くには

●再生

エンジンスイッチがACCまたはONのときテープを差し込みます。自動的に電源が入り、再生が始まります。
カセットデッキが作動するとラジオは自動的に切れます。

●再生を止めるには

⑧のボタンを押すと再生が止まり、テープが押し出されます。
テープが押し出されるとカセットデッキの電源は自動的に切れます。ただし、ラジオの電源がONのときはラジオに自動的に替わります。

●再生方向を切り替えるには

⑨のボタンの両方を同時に押します。
押すごとに再生方向が切り替わります。

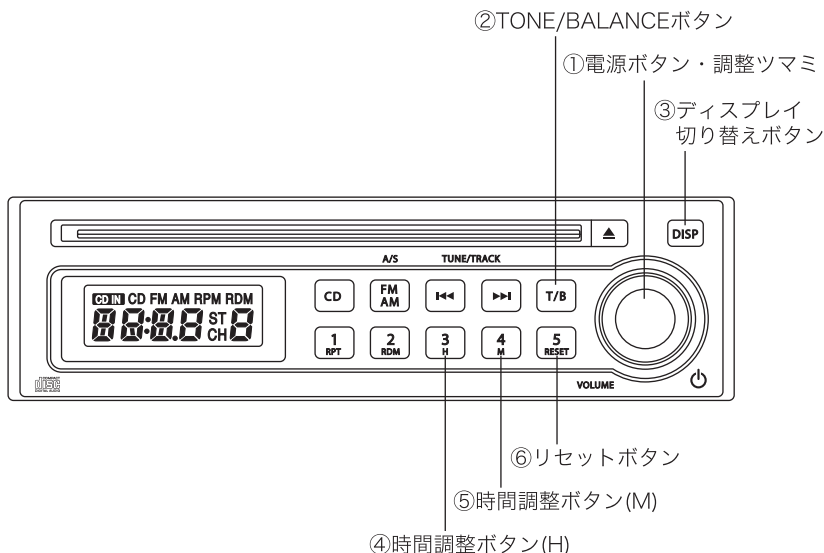
●早送り、巻き戻しをするには

⑨のボタンの右側を押すと早送り、左側を押すと巻き戻しになります。
早送り、巻き戻しを止めるときは、反対側を軽く押します。その位置から再生が始まります。

アドバイス

このラジオにはCD/MDプレーヤーが接続できます。(オプション部品) CD/MDプレーヤーにCD/MDを挿入すると再生されます。選曲、その他の操作については、CD/MDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。音量、音質調整はラジオ本体で調整します。

AM/FMマルチ電子チューナー・CDプレーヤー

共　通　機　能

■電源
エンジンスイッチがACCまたはONのとき①のボタンを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

■音量調整（VOL）
①を右に回す：音が大きくなります
①を左に回す：音が小さくなります

■音質調整（TONE）
②のボタンを押して調整モードを選択し、①のツマミを回して調整します。
②を押すごとに

BAS（低音）→TRE（高音）
↑　　　　　　　↓
VOL（音量調整）
↑　　　　　　　↓
FAD（前後）←BAL（左右）

と、切り替わります。

●低音調整（BAS）
右に回す：低音が強くなります
左に回す：低音が弱くなります

●高音調整（TRE）
右に回す：高音が強くなります
左に回す：高音が弱くなります

●左右バランス（BAL）
右に回す：左側のスピーカーの音が小さくなります
左に回す：右側のスピーカーの音が小さくなります

●前後バランス（FAD）
右に回す：後席のスピーカーの音が小さくなります
左に回す：前席のスピーカーの音が小さくなります

■時計合わせ
③のボタンを押しながら④と⑤のボタンを押して時刻を調整します。
④のボタンを押す：時（H）の調整
⑤のボタンを押す：分（M）の調整

●時報に合わせる
時報と同時に③のボタンと⑥のボタンを押します。
次のように時計の表示が調整されます。
11：30〜12：29 →12：00
12：30〜1：29 →1：00

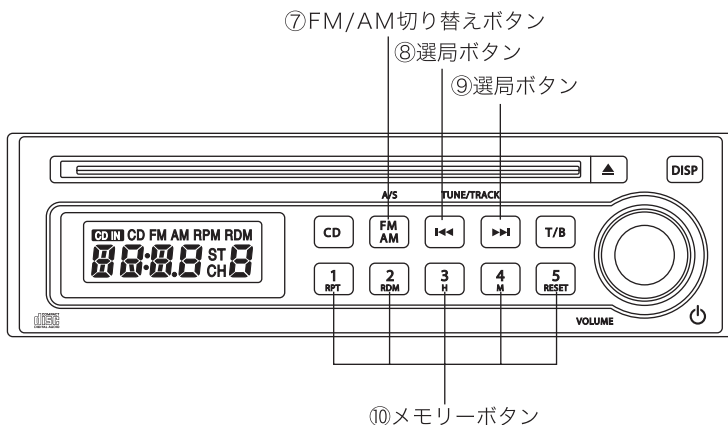
アドバイス

電源が切れて再び接続したときは、表示が「12：00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

■表示の切り替え
ラジオ電源 ON のとき③のボタンを押すごとに時計表示優先モードと機能表示モードの切り替えができます。

●機能表示モード
各モードの状態のみ表示するモードです。機能表示モードのとき③のボタンを押すと、以降時計表示優先モードになります。

●時計表示優先モード
各操作を行うと、約5秒間その操作に応じた表示を行い、その後時計表示に戻ります。

ラジオを聞くとき

■FM/AMを受信するとき

⑦を押します。

●バンドを切り替えるとき

⑦を押し、バンドを選択します。
⑦を押すごとに
FM⇔AM
と、切り替わり、ディスプレイに表示されます。

■選局（TUNE）

●自動選局

⑧と⑨のボタンを 0.5 秒以上押します。
放送局が見つかると受信を始めます。
⑨を押す： 周波数の高い方へ放送局を探します
⑧を押す： 周波数の低い方へ放送局を探します

●手動選局

⑧と⑨のボタンを押します。
⑨を押す： 周波数の高い方へ 1 ステップずつ切り替わります
⑧を押す： 周波数の低い方へ 1 ステップずつ切り替わります

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は“ST”インジケーターが点灯します。

■放送局の記憶方法

1. ⑦を押し、FM/AMを選択します。
2. メモリーしたい放送局を選局します。
3. ⑩（メモリーしたい番号を選ぶ）を２秒以上押します。
   メモリーナンバーがディスプレイに表示されます。

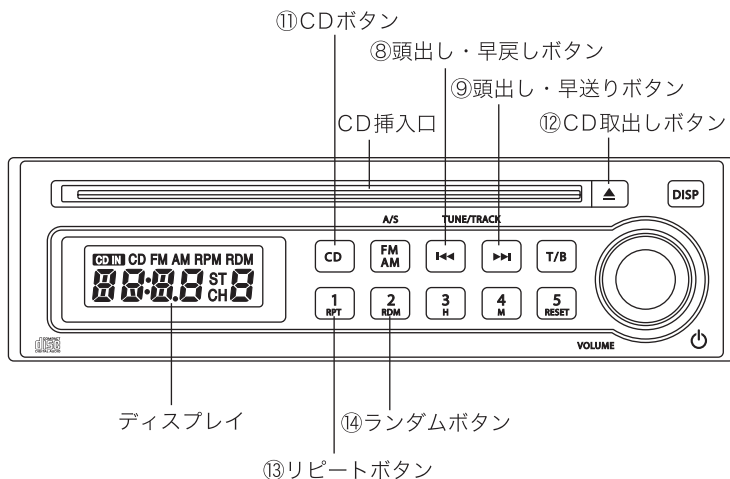
●自動的に放送局を記憶するとき

1. ⑦を押し、FM/AMを選択します。
2. ⑦を2秒以上押します。
   受信可能な放送局が見つかると、番号 1 から自動的に周波数の低い順に記憶されます。

■メモリーの呼び出し

⑩のボタンのいずれかを押します。

バッテリーを交換したときなどはメモリ―が消去されます。この場合、再度メモリーしてください。

CDを聞くとき

■CDを聞くには

●CDが入っていないとき

ディスク中心の穴と端を挟んで持ち、CD のラベル面を上にして CD 挿入口に差し込みます。
CD インジケーターが点灯し、演奏が始まります。

●CDが入っているとき

⑪のボタンを押すと、演奏が始まります。

アドバイス

- CD 演奏中はトラック No. を表示します。
- 8 cm CDは8 cm CD用アダプターを使用せず、そのまま挿入してください。
  アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど損傷の原因となります。

■曲の頭出しをするとき

●先の曲にするとき

⑨のボタンを頭出ししたい曲数分押します。押すごとに先の曲の頭出しをします。

●手前の曲にするとき

⑧のボタンを頭出ししたい曲数分押します。1回押すと今聞いている曲の先頭になり、押すごとに手前の曲の頭出しをします。

■CDを取り出す

⑫のボタンを押します。CD がイジェクトされ、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- イジェクト操作は、エンジンスイッチが ACC または電源が OFF でもできます。
- イジェクト後、ディスクを抜かずに15秒間放置すると、自動的に引き込まれ、ポーズ状態になります。

■曲の早送り、早戻し

●早送り

⑨のボタンを0.5秒以上押します。押している間早送りし、手を放したところから演奏を始めます。

●早戻し

⑧のボタンを0.5秒以上押します。押している間早戻しし、手を放したところから演奏を始めます。

■同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

繰り返し聞きたい曲の演奏中に⑬のボタンを押します。
押すと“RPT”インジケーターが点灯します。解除するときは再度押します。

アドバイス

下記の場合、リピートプレイは解除されます。
- 演奏を停止したとき
- ランダムプレイにしたとき
- CD以外のモードにしたとき

■曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

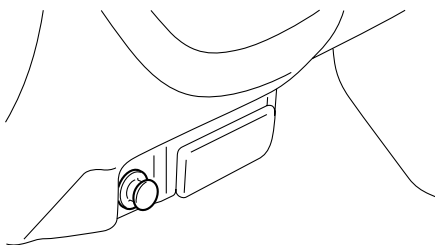
⑭のボタンを押すと、自動的に曲を選び、演奏を始めます。
押すと“RDM”インジケーターが点灯します。解除するときは再度⑪のボタンを押します

アドバイス

下記の場合、ランダムプレイは解除されます。
- 演奏を停止したとき
- リピートプレイにしたとき
- CD以外のモードにしたとき

室内装備

シガーライター

エンジンスイッチがACCまたはONのとき
シガーライターを押し込みます。
手を放し、自動的に戻るまで待ちます。

⚠ 注意

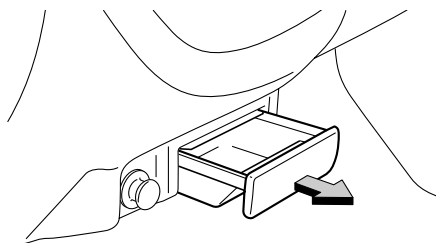
シガーライターとして使うとき

- シガーライターの金属部分に触れないでください。やけどをすることがあります。
- 押さえつけたままにしないでください。シガーライターが過熱して危険です。
- 30秒以上たっても戻らないときは手で引き出してください。
- 他車のシガーライターを使用しないでください。戻らなくなることがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。

ソケットから電源を取るとき

- スバル純正品の使用をお奨めします。
- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。
  また、走行中の使用でも不要になったら切るように心がけてください。

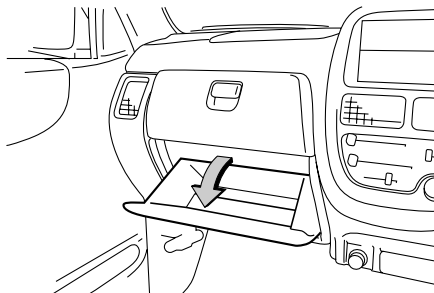
灰皿

使うときは手前に引き出します。
外すときは遮熱板を下に押して引き出します。

⚠ 注意

灰皿を使うとき

- マッチ、タバコは完全に火を消してから入れ、確実に閉めてください。開けたままにするとタバコの火が他の吸ガラに燃え広がり、周囲をこがすことがあり、さらに火災になることがあります。
- 紙くずなど燃えやすいものを入れないでください。
- 吸ガラをため過ぎないでください。

グローブボックス

小物や書類を入れるのに使います。
取っ手を引いて開けます。

⚠ 注意

走行中は

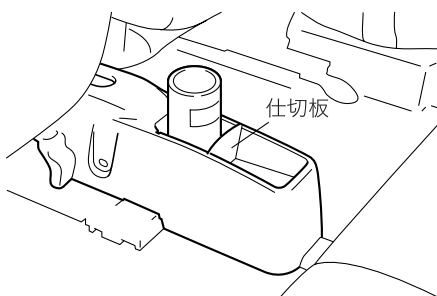
グローブボックスを必ず閉めてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。

アドバイス

車から離れるときには

車から離れるときには盗難防止のためにも貴重品は持参してください。

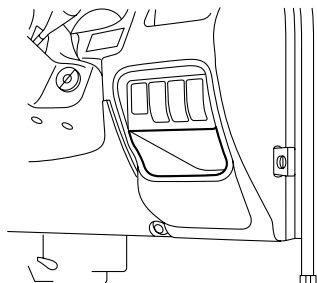
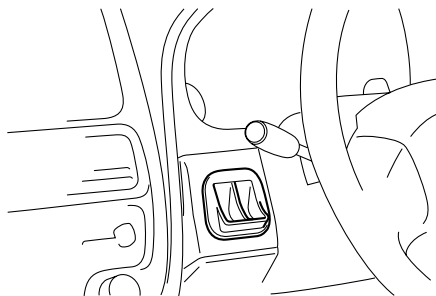
カップホルダー

センターコンソールの後方にあります。

アドバイス

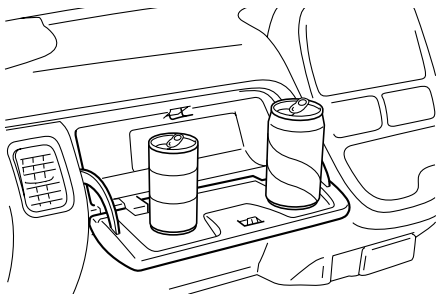
カップホルダー内の仕切板を外すと、物入れとして使えます。

小物入れ

■小物入れ

仕切りの上側にはカードを入れることもできます。

■コイントレイ

インパネマルチボックス

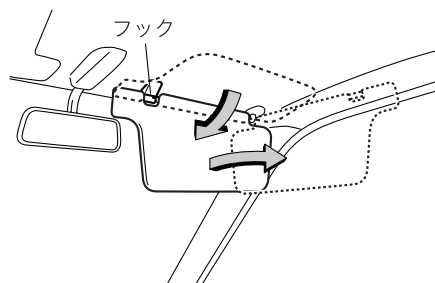
小物などを入れるのに使います。取っ手を引いて開けますとトレイとしても使用できます。

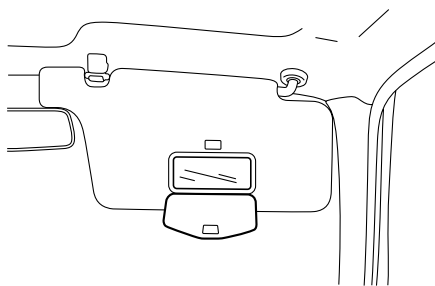
⚠ **注意**

取っ手を押して閉めないでください。ロック部の損傷や閉まり不良になることがあります。

⚠ **警告**

走行中はインパネマルチボックスのフタを必ず閉めておいてください。万一の場合、開いたフタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをすることがあります。
また、助手席SRSエアバッグ付車はエアバッグが正常に作動しなくなったり、作動時にフタの上に置いてあるものが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
☆2−33ページ参照

サンバイザー

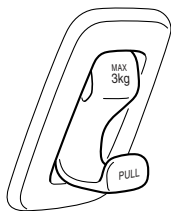
横に回すときはフックから外して使用します。運転席側にはチケットホルダーがついています。

■バニティミラー

運転席サンバイザーの裏側に鏡がついています。必要のないときは、必ずフタを閉めておいてください。

⚠ **注意**

走行中は、必ずフタを閉めてください。

カーゴフック ✽

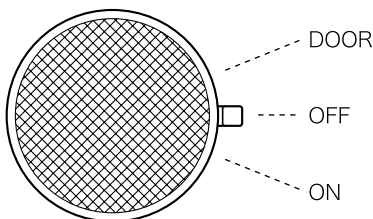
助手席の背当て背面にフックが装着されています。フックは手前に引いて（PULL部）使用してください。買い物袋などの軽量物の吊り下げ用途に限定してお使いください。
使用後は元に戻してください。

許容荷重：3 kg

アドバイス

重い物を吊り下げないでください。
フックが折れるおそれがあります。

室内灯

■ルームランプ

レバー位置により切り替えができます。
ON（前に動かす）……常に点灯します。
OFF（中間）…………常に消灯します。
DOOR（後に動かす）
…… 運転席ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。（電波式リモコンドアロック付車は全ドア連動）

アドバイス

車から離れるときには
消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因となります。
点灯したままにしないで
長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

●オフディレイ機能

DOORの位置のとき、フロントドア、リヤドア、リヤゲートを開けると点灯し、閉めるとしばらく点灯しその後消灯します。

アドバイス

車から離れるときには
消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因となります。
点灯したままにしないで
長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

5 寒冷地での使いかた

・寒冷地での使いかた

寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検

■冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着してください

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

アドバイス

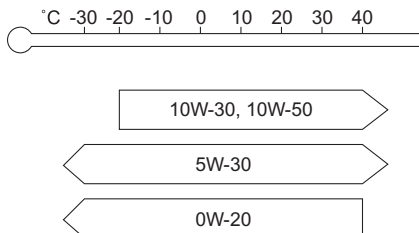
- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
- 装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ・４輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ・タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。

☆5−7ページ参照

  - ・タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

■エンジンオイル

下図を参考に、外気温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。

℃	-30	-20	-10	0	10	20	30	40
10W-30, 10W-50					→	→	→	→
5W-30	←	←	←	←	→	→	→	→
0W-20	←	←	←	←				

アドバイス

エンジンオイルは、スバル純正エンジンオイル0W－20（SM級）をお奨めします。

■冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバル純正クーラント（希釈タイプあるいは濃縮タイプ）をお使いください。

- 希釈タイプは、そのままお使いください。
- 濃縮タイプは、濃度を50%の希釈割合（濃度）にしてお使いください。

■ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、補充用ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

注意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。不適合の場合、ウインドゥガラスに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分をスバル純正水分除去剤で除去されることをお奨めします。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

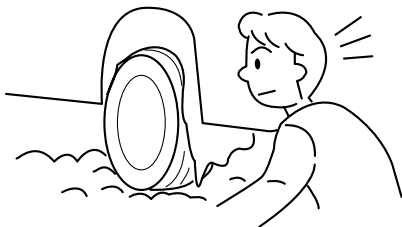
- 降雪期は寒冷地用ワイパーブレードを使うと雪の付着が防げ、視界の確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

アドバイス

- 高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなることがあります。その場合には、速度を落として走行してください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

走行する前に

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりがついていないか点検してください。
雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れが悪くなることがあります。

付着している雪や氷を取り除いてください。

⚠ 注意

雪や氷を取り除く場合は

鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。
ABS 装着車は各タイヤ内側に車速センサーが取り付けてあります。

■屋根の雪の除去

屋根に積もった雪を走行する前に取り除きます。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げになります。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を除去してください。

アドバイス

金属製のものを使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるとき

ドアが凍結しているときは無理に開けるとドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後水分を充分拭き取ってください。

アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中
アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結
ワイパー、パワーウインドゥなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。
無理にワイパーを作動させるとワイパーブレードのゴムが切れることがあります。
ワイパーブレードがフロントガラスやリヤガラスに凍りついているときは、デフロスター、リヤウインドゥデフォッガーを使用してガラスを暖めてください。
☆3－9、4－6ページ参照

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面では急激なエンジンブレーキは効かせないでください。タイヤがスリップするおそれがあります。

アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、発進時２速ギヤの使用をお奨めします。（マニュアル車）

■ブレーキの効きを点検してください
ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。
走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。
効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。
ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください
走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。

■ヘッドランプを点検してください
ヘッドランプが汚れていると正常に照らすことができませんので、汚れを拭き取ってください。

駐車するときは

■ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキを引いておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。
次の要領で駐車してください。

- マニュアル車は1速かRに入れます。
- i-CVT車は[P]に入れます。
- 輪止めをします。
  車の前方を風下に向けて駐車します。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに貼りつくことを防ぎます。

■車体に多量の積雪がある状態で放置しないでください

凍結などにより、車両に悪影響を受けることがあります。
☆1－20ページ参照

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに下廻りを洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも充分に洗ってください。
放置すると塩分で腐食しやすくなります。

■洗車の注意

☆7－2 ページの「車の手入れ」参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。
ブレーキが凍結することがあります。車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

タイヤチェーンの装着

- 雪道走行が事前に予測される場合には4輪ともスタッドレスタイヤ［必ず4輪とも同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）］を装着してください。
- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、前輪に取り付けてください。
  AWD車の場合も、チェーンは前輪に取り付けてください。後輪に装着しないでください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によってはスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップに傷がつく場合があります。

⚠ 注意

- タイヤチェーンを取り付けると前後のバランスが変わるため、後輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m 程度）、異音やタイヤチェーンのたるみなどを確かめてください。

■タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。市販のJISチェーンは、一般用のため、長過ぎて余ったチェーンが車体に当たる場合があります。
市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。

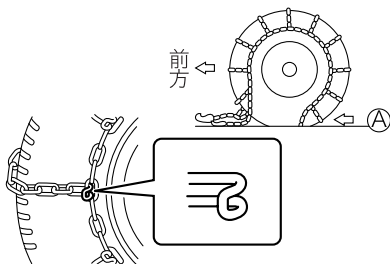
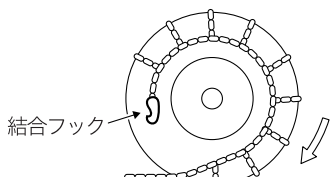
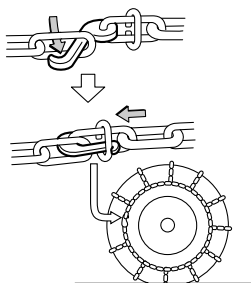
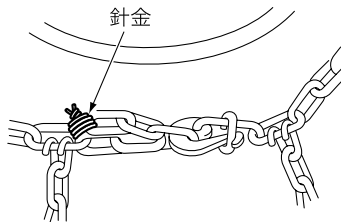
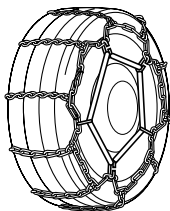
タイヤサイズ	スバル純正チェーン 純正番号	スプリング チェーン	市販JIS チェーン
155/70 R12 73S	B3145KA021	装着不可	装着不可
155/65 R13 73S	装着不可	B3177KE000	装着不可

■標準的なタイヤチェーン（スチールチェーン）の取り付けかた

タイヤチェーンは前輪に取り付けます。
後輪には取り付けないでください。

アドバイス

タイヤチェーンを取り付けるときは、手袋などを着用してください。

①交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止め、駐車ブレーキをかけます。
②前輪を直進状態にします。
③タイヤチェーンを前輪にかぶせます。
- クロスチェーンのつなぎが外側になるようにチェーンをタイヤの上からかぶせます。
- Ⓐ部をできるだけタイヤの下側にくい込ませるようにセットします。
（⇦Ⓐ印部）

④車を少し後ろに動かします。タイヤを約1/3～1/4回転させるとチェーンの結合フックが作業しやすい前側にきます。

⑤ハンドルを右または左に切り、チェーンをつなぎます。
- 内側のフックから連結し、次の外側のフックを連結します。
- 内側と外側の余りが同数となるように連結します。
- クロスチェーンの踏みかたが悪いとチェーンの長さが不足したり、チェーンの巻きかたがゆるくなることがあります。そのときはジャッキアップしてチェーンをきつく巻き直します。

⑥余ったチェーンを針金で固定するか、切って、ほかの所に当たるのを防止します。

⑦チェーンバンドのクリップを外向きにし、円周をほぼ等分するようにチェーンを張ります。

⑧少し走り、取り付け状態（ゆるみ、当たり）を確認します。

●外しかた

チェーンバンドを外し、針金を取って内側フックを外すとチェーンは外側に外れます。
車を少し動かしてチェーンを取り出します。

■その他の取り付けかた

ジャッキアップして取り付ける方法があります。慣れない方にお奨めします。作業がやりやすく、確実に取り付けられます。

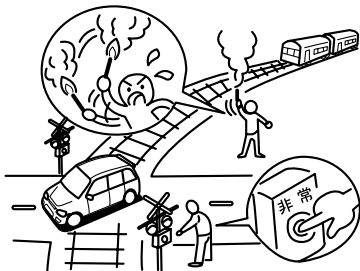
■使用後の手入れ

使用後は水洗いして乾燥させ、防錆剤を塗布して保管します。
クロスチェーンが線径の1/3まで摩耗すると寿命です。早めに新品のタイヤチェーンを準備してください。

6 万一のとき

故障したとき

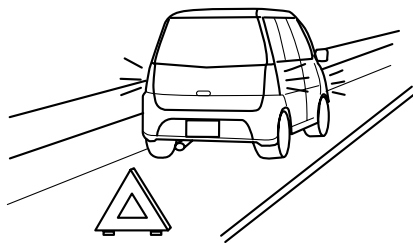
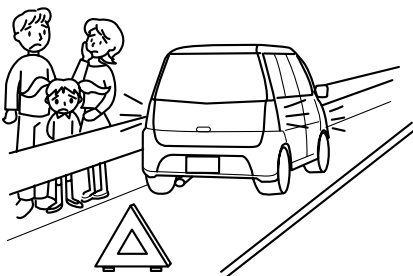
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで脱出できないとき、非常ボタンがある踏切では、非常ボタンを押してください。
非常ボタンがない、位置がわからない、緊急を要するときは、発炎筒を使い合図をしてください。

アドバイス

マニュアル車、i-CVT車ともエンジンスイッチをスタート位置で保持して（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。

- i-CVT車はPレンジおよびNレンジ以外ではスターターが回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

自動車専用道路で動けなくなったとき

①車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

②全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

③安全を確保後、救援をたのみます。

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示等）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

①あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
②エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所に移動してください。そのときチェンジレバー、セレクトレバーはNにします。

故障時の対応方法と連絡先

①可能な範囲で車を安全な場所に移動してください。
②最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡をしてください。
③スバルネットワーク店に連絡が取れない場合はJAFロードサービスに連絡をしてください。

アドバイス

- スバルネットワーク店とJAFロードサービスの連絡先は別冊のスバルサービスネットワークに記載されています。
  なお、JAFは電話番号：#8139（ロードサービスセンター）にて、全国からご相談できます。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救援につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

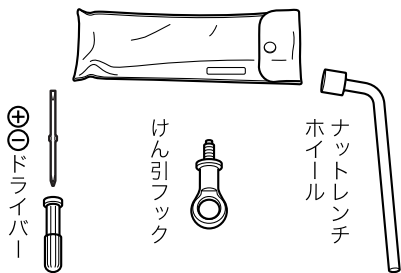
④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

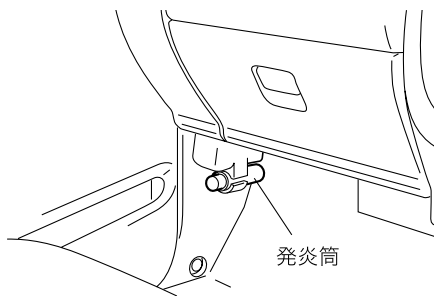
ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

工具、発炎筒、スペアタイヤ、ジャッキ・ジャッキハンドル

工　具

●搭載工具
①ツールバッグ
②ドライバー（プラス、マイナス兼用）
③ホイールナットレンチ
④けん引フック

工具は、定めた場所に置いておくと、万一のときすぐ取り出せます。
この他に必要と思われる工具もそろえておくと、点検や手入れのとき役立ちます。

発　炎　筒

発炎筒はグローブボックス左下のボディに取り付けてあります。
使用方法は発炎筒の外側に書いてありますのであらかじめ確認しておいてください。

⚠ 警告

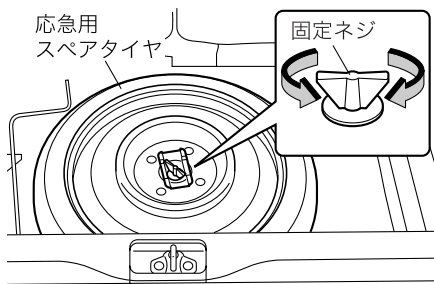
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故になって重大な傷害につながるおそれがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中では使用しないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。

アドバイス

発炎筒には有効期限が明示されています。期限切れのものは新品と交換してください。

応急用スペアタイヤ

■取り外しかた

カーゴルーム内のフロア部に格納されています。固定ネジをゆるめて取り外してください。

■応急用スペアタイヤについて

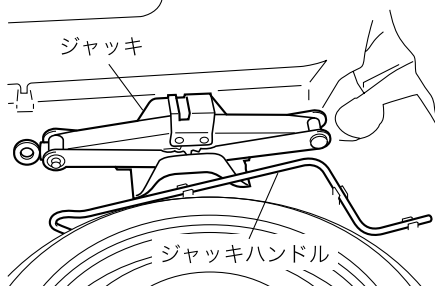
⚠ 注意

応急スペアタイヤは標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。
使用するときは次のことを守ってください。

- 応急用スペアタイヤの空気圧は必ず点検してください。（月1回程度）
  空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
  空気圧：420 kPa (4.2 kg/cm²)（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
  この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車のものを使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは、高速走行には適していません。応急用スペアタイヤを装着したときは、80 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪についているタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤをつけてください。

- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合は、応急用スペアタイヤを前輪に使用せず、後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- スリップサインが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

ジャッキ・ジャッキハンドル

ジャッキと応急用スペアタイヤは車体後部の荷室の左側に収められています。

●取り出すとき

リヤゲートを開けてマットをめくり、ジャッキハンドルを取り外した後、ジャッキを縮めて取り出します。

●収めるとき

荷室フロアのフックに合わせてからジャッキが軽く当たるところまで拡げて固定します。
ジャッキ固定後、ハンドルを固定してください。

アドバイス

ときどきジャッキを点検してください
ネジ部にグリースが切れていたら、薄く塗っておいてください。

タイヤ交換

⚠ 警告

- ジャッキアップしたら車両の下に絶対に入らないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車の中に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ジャッキを使うときは、次のことを必ず守ってください。

- 平坦で硬いところに駐車して、作業してください。
- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。
  また、車載されたジャッキは他車には使用しないでください。
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキを引き、i-CVT 車はセレクトレバーを[P]にマニュアル車はシフトレバーを“R”にしてください。
- 輪止めなどで車を固定してください。
- ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
- 人や重い荷物は必ず車から降ろしてください。

アドバイス

- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め直してください。(6 − 11ページ参照)
- 車体に振動が出たらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
- ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

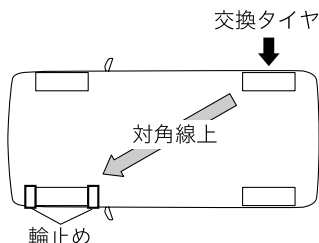
タイヤ交換手順

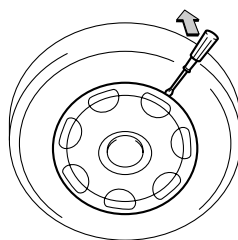
■交換前にすること

①交通のじゃまにならず、安全に作業ができる場所に車を止めます。

⚠ 注意

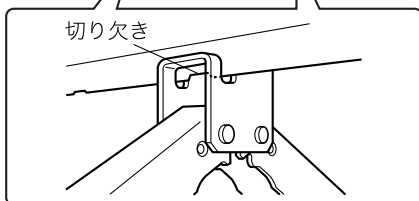
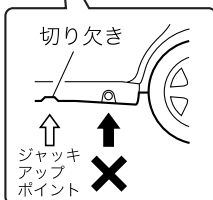
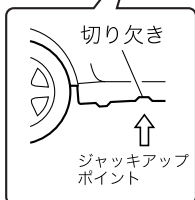
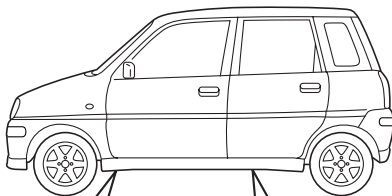
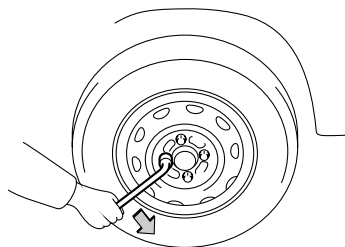
地面が平坦で硬く、車が安定する場所を選んで止めてください。

②駐車ブレーキを引きます。
③非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板を使用します。
④車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。

⑤ジャッキ、ジャッキハンドル、スペアタイヤ、工具を取り出します。
☆6−5ページ参照
⑥スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体下に置きます。

⑦フルホイールキャップ装着車はホイールキャップを外します。ホイールキャップ外周にドライバーを差し込み、タイヤ側にこじって外します。

■ジャッキアップするとき

①交換するタイヤに近いジャッキアップポイントにジャッキをセットし、車体に当たるまで手で回して上げます。

⚠ 注意

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
セット位置以外にかかっていると車両を傷つけたり、ジャッキが倒れてけがをするおそれがあります。

②ホイールナットレンチを使い、ホイールナット全てを約半回転ゆるめます。

③ジャッキハンドルを使い、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

⚠ 注意

車体を上げ過ぎないでください。必要以上に車体を高く上げると不安定になり、ジャッキが外れて思わぬけがをすることがあります。

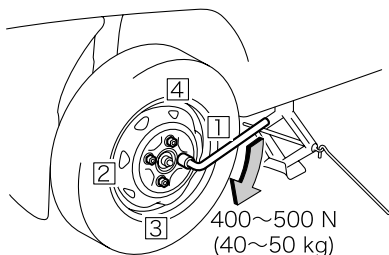
■タイヤ交換

①ホイールナットを外します。
②タイヤを取り替えます。
このとき、ホイールの接触面の汚れを拭き取ります。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

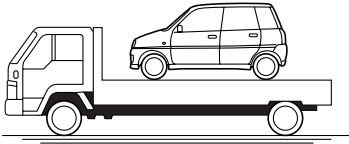
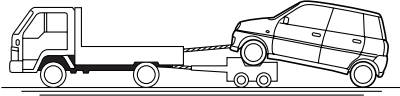
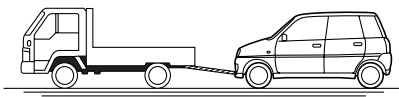
③ホイールナットを手でいっぱい回します。ホイールが動かない程度までホイールナットを仮締めします。
④ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
⑤図の順番に2、3回に分けてホイールナットを締め付けます。

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参　考）
400～500 N（40～50 kg）	80～100 N･m（8～10 kg･m）

注意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイール座面、ネジ部にオイルやグリースなどがついていないようにしてください。油がついていると、締め過ぎの原因になります。

⑥フルホイールキャップのバルブ穴とタイヤのバルブを合わせ、ホイールキャップ外周を叩いて、取り付けます。（フルホイールキャップ付き車）
⑦センターキャップは、パンクしたタイヤの裏側から叩いて外すか、ドライバーでこじって外し、手で叩いてはめます。
（センターキャップ付き車）

■パンクしたタイヤの格納

スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。
出先では、別冊のスバルサービスネットワークを参考にスバル販売店、スバル指定サービス工場、JAFロードサービスに依頼してください。

けん引されるとき

■けん引方法の違い

やむを得ずけん引する場合、車の仕様により、けん引方法が違います。下記の表を参照し、車の仕様に合ったけん引をしてください。

（○：可能　×：不可　△：条件付きで可能）

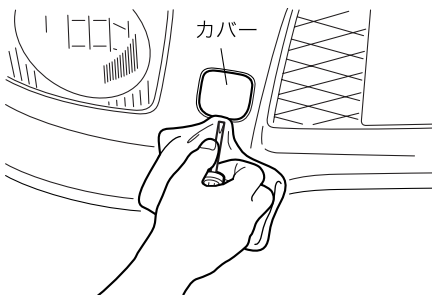
仕様 ＼ けん引の種類		A 車載	B 前輪持ち上げけん引	C ロープけん引	けん引条件
2WD車	マニュアル車	○	○	○	■条件：走行速度30 km/h以下、走行距離30 km以内で走行してください。これらの条件を超えると、駆動装置が損傷するおそれがあります。
	i-CVT車	○	○	△条件	
AWD車	マニュアル車	○	×	○	
	i-CVT車	○	×	△条件	

トランスミッション（変速機）や駆動装置、走行装置が故障したと思われる場合は、車載してください。

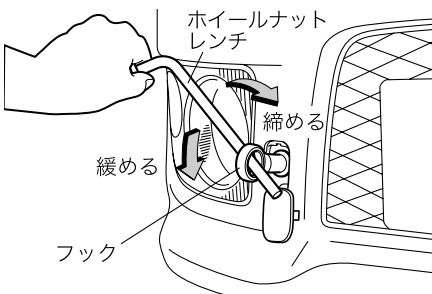
■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

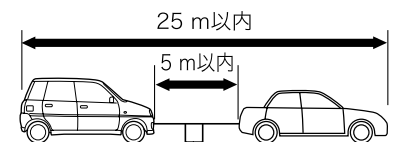
①けん引フックにロープをかけます。
けん引フックは右側（運転席側）のフロントバンパー裏側に取り付けます。

- マイナスドライバーなどの折れにくいものでカバー（フロントバンパー）を取り外します。

アドバイス

バンパーの傷つきを防ぐため、ウエス等をあてがってください。

- けん引フックをホイールナットレンチなどを使用して、確実に取り付けます。

アドバイス

けん引フック、ホイールナットレンチ、マイナスドライバーは車載の工具袋に入っています。

②ロープ中央部に白い布（0.3 m平方以上）を付けます。

③マニュアル車、i-CVT 車とも「ニュートラル」にします。

④駐車ブレーキを解除し、けん引します。
けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 警告

- エンジンスイッチを「LOCK」の位置にしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

注意

- マニュアル車、オートマチック車とも「ニュートラル」位置にしてください。
- エンジンスイッチを「ON」の位置にしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
  - ・ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
  - ・パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキを確実に戻してください。
- トランスミッション（変速機）および駆動装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引してもらうときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引してもらうと、バンパーを損傷するおそれがあります。

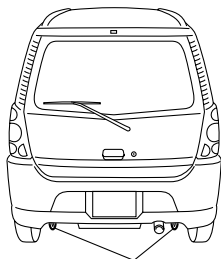
他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

 アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻く等の保護処置をしてください。

●けん引フックの位置

リヤバンパー下の両端にあります。

オーバーヒートしたとき

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

☆3−12ページ参照

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが充分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

■対処のしかた

①後続車に注意し、安全な場所に車を止めます。

アドバイス

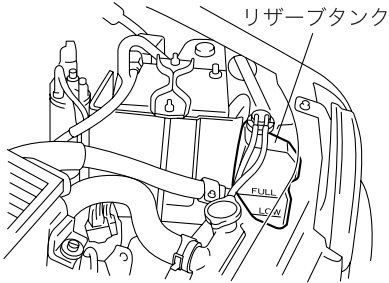
エアコンを使用している場合はエアコンを止めてください。

②エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたまま、ボンネットを開けて風通しをよくします。
このとき、冷却ファンが回っていることを確認してください。
ファンが回っていないときは、エンジンをすぐに止めてスバル販売店に連絡してください。

アドバイス

エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、後続車に注意し、車を安全な場所に止め、すぐにエンジンを止めてください。
スバル販売店に連絡してください。

③水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。
④エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。

⑤冷却水が不足しているときは、補給します。ラジエーター注水口の口元まで、リザーブタンクの上限（FULL レベルライン）まで補給してください。

アドバイス

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。
- 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

⑥早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき。
- ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき。

⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。
  バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、プラス端子とマイナス端子を間違えたり、プラス端子とマイナス端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふに付くと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

⚠ 注意

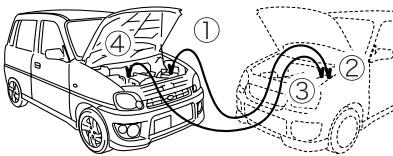
ブースターケーブルを接続するときは次の項目をお守りください。

- 12Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼し、ブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

●ブースターケーブルの接続手順

1) 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーのプラス端子につなぎます。
2) 赤色のブースターケーブルを救援車のバッテリーのプラス端子につなぎます。
3) 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーのマイナス端子につなぎます。
4) 黒色のブースターケーブルを自車のバッテリーから離れたエンジン本体の金属部分（エンジンハンガー等）につなぎます。
5) 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
6) 自車のエンジンをかけます。
7) ブースターケーブルをつないだ時と逆手順で外します。

（バッテリー上がり車）　（電源側の車）

アドバイス

- 上がってしまったバッテリーは、すみやかに完全充電してください。
- 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのにランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球（バルブ）切れが考えられます。
この場合､以下の手順で確認してください。
①エンジンスイッチを“LOCK”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示で確認し､点検します。
③切れているときは、ヒューズや電球を交換します。

⚠ 注意

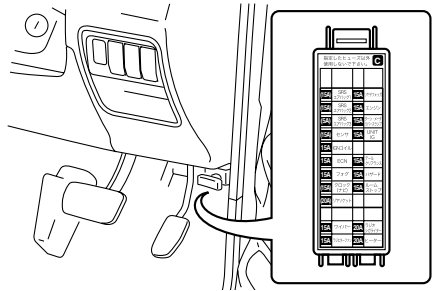
ヒューズを交換するときは

- 必ずエンジンスイッチをLOCK位置にしてください。ONのままですと、ショートしたりして危険です。
- 指定容量のものと交換してください。それ以外のヒューズを使うと故障につながります。
- 針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。
- スペアヒューズを取り付ける前に切れた原因を調べてください。交換してもすぐ切れてしまうときは、点検整備を受けてください。

アドバイス

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、最寄りのスバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後は最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

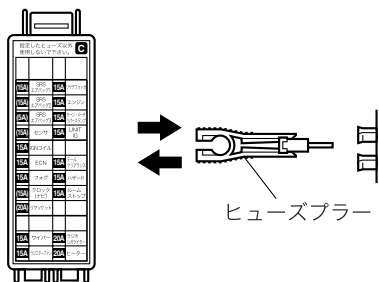
■ヒューズボックスの位置

運転席足元右側とエンジンルームに取り付けてあります。
ツメ（上部）を押してカバーを外します。

■ヒューズの交換のしかた

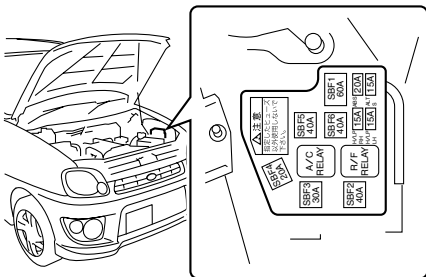
カバーの表面に代表的な接続回路が表示されています。故障の状況から点検すべきヒューズを確認します。

交換はヒューズプラーで挟み、引き抜き、スペアヒューズを入れてください。交換後はすみやかに点検整備を受けてください。

スペアヒューズはカバー裏に 20A1 本、15A1本付いています。

ヒューズプラーもカバーの裏に付いています。

■メインヒューズ

メインヒューズボックスは、エンジンルーム内のバッテリーの近くにあります。

メインヒューズ［60A、40A、30A、20A (大きいタイプ)］が切れている場合は、すみやかに点検整備を受けてください。

アドバイス

メインヒューズボックス内にヒューズ［20A（小さいタイプ）、15A］があります。このヒューズが切れたときは室内のヒューズボックス用スペアヒューズを使用してください。交換後はすみやかに点検整備を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき

- ライト類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。

☆7−11ページ参照

また、電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

7 車　の　手　入　れ

・車の手入れ

車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

下記のような場所を走行した後は、必ず洗車してください。
また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したときや海岸地帯を走行したときは、錆の原因となりますので車体の下廻り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき

■保管のしかた

車の保管、駐車は次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない風通しのよい場所
- 鉄道線路わきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばを避けます
- いたずらされにくい場所

アドバイス

- ラフロード等を走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロード等の走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。
なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線等に傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外駐車は車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターなど）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長期間保管する場合には、駐車ブレーキを引かずに“1”速か“R”（i-CVT車はPレンジ）に入れ、輪止めをして車が動かないようにしてください。
また、ワイパーを立てておいてください。ゴムのくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、下記の点をお守りください。
  - ・スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
  - ・ときどき水洗いして砂ほこりなどを取り去ってください。
  - ・風で飛ばされないようにしっかりかけてください。
  - ・雨の後、ボディカバーを外し、風通しをよくして車とボディカバーを乾かしてください。

外装の手入れ

■洗車のしかた

- 水を充分かけながら洗車します。
- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

⚠ 注意

- エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、クラッチ切れ不良、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。
- 洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。

アドバイス

アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。
汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。

●自動洗車機を使うとき

- ドアミラーは内側にたたんでください。
- リヤスポイラー付車を洗車する場合、上面ブラシやエアブローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアブローダクトがリヤスポイラーにひっかかり、リヤスポイラーを損傷することがあります。
- 自動洗車機の種類によっては、ブラシが引っかかりリヤワイパーを損傷させるおそれがあります。洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認し、リヤワイパーを損傷させるおそれがある場合はリヤワイパーをガムテープで固定してください。係員がいる洗車場では、係員の指示に従ってください。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。コイン洗車機などの温水洗車機には機種によっては高温・高圧になるものがあるので、モールなど樹脂部品の変形、損傷や室内に水が入ることがあります。

■ワックスのかけかた

洗車のあと、ボディの温度が体温以下のときワックスがけをします。

アドバイス

お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

■ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
ガラス洗浄剤はスバル純正品を使用してください。

アドバイス

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用しますと、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなると同時に夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドライトでガラスがぎらぎら光り、大変危険です。
このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。

- リヤガラス（熱線）を車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、熱線に沿って拭いてください。リヤウインドゥデフォッガーの熱線を損傷することがあります。

内装の手入れ

①カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
②水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
- 飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。

③直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

警告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。
シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

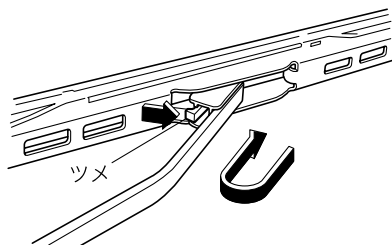
- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

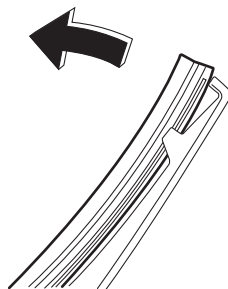
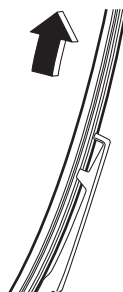
■その他の手入れ

エアコン操作部、メーター、オーディオ操作部、インストルメントパネル、コンソールボックス、スイッチなどのプラスチック部品を清掃するときは、ぬれた柔らかい布を使用してください。
きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。

ワイパーブレードの交換

■ワイパー本体の交換

①ワイパーアームについているツメを押しながらブレードを矢印の方向に引いて外してください。

■ブレードラバーの交換方法

①ブレードラバー端部をストッパーより外し、ラバーを引き抜いてください。

②新しいブレードラバーを挿入します。このとき、ラバーの溝部へ確実に挿入してください。

③ワイパーブレードに新品のワイパーブレードラバーを挿入してください。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認してからワイパーを作動させてください。適切に装着されていないと、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

アドバイス

- ワイパー本体およびワイパーブレード（ゴム）はスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けるとガラスに傷をつけることがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。
- 運転席側、助手席側、リヤ側ではブレードの長さが異なります。
  フロント
  　運転席側：500 mm
  　助手席側：425 mm
  リヤ　　　：350 mm
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながら、ウインドゥガラス面まで静かに戻してください。スプリングの力だけで離れた位置から戻すとワイパアームの変形や、フロントガラスに傷がつくことがあります。

タイヤおよびホイール

■タイヤの点検

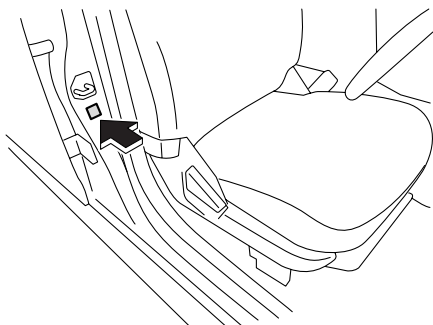
タイヤに大きな傷がないか、くぎがささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。
タイヤが異常に摩耗したりしていないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらスバル販売店にご相談ください。

注意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。このような損傷は後にならないとわかりません。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

■タイヤ空気圧と摩耗

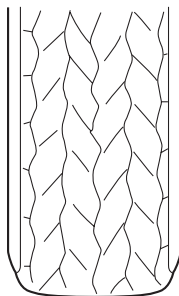
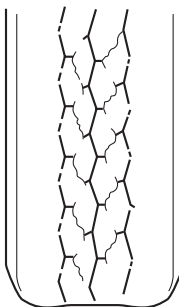
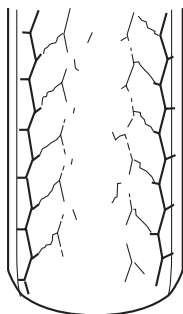
タイヤの空気圧を適正に保つことは、タイヤの寿命を延ばすだけでなく走行性能の点で非常に重要です。スペアタイヤを含むタイヤの空気圧は、最低でも月に１回は燃料補給の際等に点検し正しく調整してください。また、長距離走行の前にも必ず点検してください。

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに実施してください。空気圧ゲージを使用し、タイヤ空気圧ラベルに記載されている指定値どおりに調整してください。
タイヤ空気圧ラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。

タイヤはわずかな距離を走っただけでも暖まり空気圧は上昇します。また、タイヤの空気圧は気温の影響も受けますので、空気圧の点検は屋外で運転開始前に行うのが最良です。
タイヤが暖まっているとタイヤの中の空気が膨張するために空気圧は高くなるので誤って空気圧を下げないでください。

⚠ 注意

- タイヤが暖まっているときは約 30 kPa (0.3 kg/cm^2) 空気圧が高くなります。
- タイヤが冷えているときというのは、車を3時間以上駐車しておくか、走行距離が 1 km 以下の走行を意味します。

タイヤ空気圧が適正でないと操縦性能や乗り心地を悪化させるとともにタイヤの偏摩耗や異常摩耗の原因となります。

- 空気圧が適正である場合…
  タイヤの接地面が均一に摩耗。
  路面との接地性が良くハンドル操作が正確になります。
  車輪の抵抗が減るため燃料消費量が減少します。

- 空気圧が不足している場合…
  タイヤの接地面の端部が摩耗。
  車輪の抵抗が増えるため燃料消費量が増加します。

- 空気圧が過大な場合…
  タイヤ接地面の中央部が摩耗。
  車の乗り心地が悪くなります。
  タイヤが路面の凹凸の影響を受けやすくなり、車両故障の原因になります。

⚠ 警告

とくに空気圧が低い状態のまま高速走行するとタイヤは極端に変形しタイヤ自体の温度が急激に高くなります。タイヤ温度の急激な上昇は、タイヤの接地面にセパレーション（剥離現象）を生じさせ、タイヤの破裂を引き起こす原因になることもあります。その結果、車両のコントロールを失い事故につながるおそれがあります。

■ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。
ホイールバランスの狂いを感じたらスバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

■ホイールアライメント

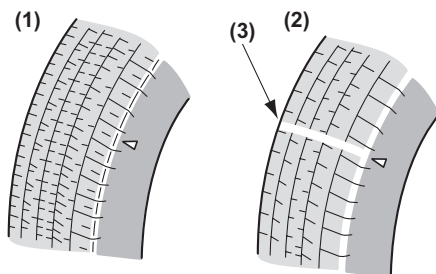
車両の直進性、旋回性を確保するため、あらかじめサスペンションに設定されている角度です。
縁石などにぶつかったりするとホイールアライメントが狂うことがあります。

⚠ 注意

ホイールアライメントが狂っていると、タイヤの片側だけが摩耗したり走行安定性が低下します。タイヤの異常摩耗に気がついたらスバル販売店にご相談ください。

■ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗状況を表示するもの）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが1.6 mm以下になると現れます。

タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

(1) 新品タイヤ
(2) 摩耗したタイヤ
(3) ウエアインジケーター

⚠ 警告

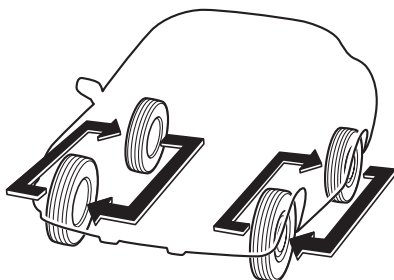
ウエアインジケーターが現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。

ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象*を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

＊：水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

⚠ 注意

安全のためにタイヤの接地面を定期的に点検しウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの摩耗は、各タイヤごとで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 km ごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

右側タイヤは右側のみで、左側タイヤは左側のみで前後に位置交換をしてください。

タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。

タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットの締め付けを確認してください。

約1,000 km走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。

■タイヤについて

ホイールおよびタイヤは単なる付属品ではなく、設計上でも大変重要な役割を果たしています。

お車には、走行性能と乗り心地と寿命をバランスさせた、車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。

タイヤを交換するときは、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

⚠ 警告

- ４輪のうち１輪でも異なるタイヤを装着すると、車両の駆動系の損傷につながるおそれや、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - ・4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - ・著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - ・摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - ・タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - ・応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。

  なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。
- ラジアルタイヤ以外は装着しないでください。操縦性を危険なものにし、事故につながるおそれがあります。

■ホイールの交換

- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズはサービスデータをご覧ください。

☆8−5ページ参照

⚠ 警告

仕様違いのホイールを装着しないでください。ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることで操舵時にタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ホイールは、リムサイズやオフセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、スバル販売店にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- タイヤやホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

電球（バルブ）の交換

ヘッドランプ、車幅灯、前面、側面、後面方向指示灯兼非常点滅灯、尾灯、制動灯、後退灯の電球の交換について記載してあります。その他の電球の交換についてはスバル販売店にご相談ください。

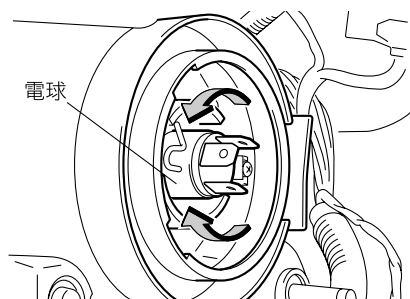
⚠ 注意

- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。
  取り扱いには充分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。

アドバイス

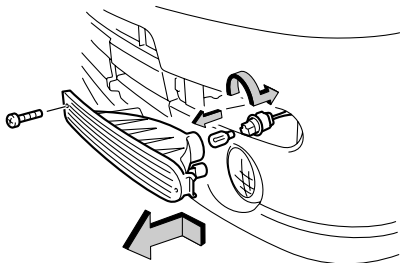
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。
  電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプ、ヘッドランプの電球を交換したときは法令で定められた光軸調整が必要となります。
  スバル販売店にご相談ください。
- レンズをネジで締め付けるとき、締め過ぎてレンズを割らないように気をつけてください。

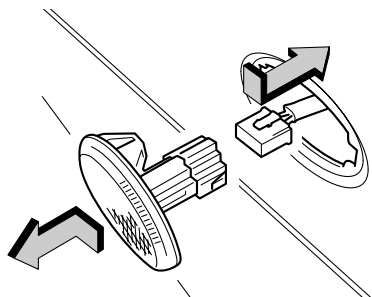
■ヘッドランプ

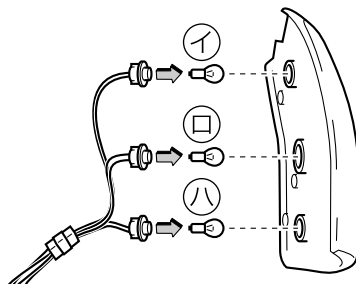
①ボンネットを開け、ヘッドランプのコネクターを外します。
②カバーを外します。
③電球を固定しているロックを外し、電球を取り出します。
④取り付けの際、カバーのTOP位置を上にして取り付けます。

注意

ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたりすると損傷してガラスが飛び散る場合がありますので充分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

■前面方向指示灯兼非常点滅表示灯

①前面のネジ１本を外し、ランプ本体を車体内側へずらして前方へ取り外します。
②ソケットを左側に回し、ランプ本体から外します。
③ソケットから電球を引き抜きます。

■側面方向指示灯兼非常点滅表示灯

①車体前方へレンズを押しつけながら、手前に引き出します。
②ソケットからコネクターを引き抜きます。
③ランプAssyを交換します。

■リヤコンビネーションランプ

①ネジ２本を外してランプ本体を後方に取り外します。(外側に2本差し込みピンがあります)
②ソケットを左に回し、ランプ本体から外します。
③ソケットから電球を引き抜きます。
　㋑：後面方向指示灯兼非常点滅表示灯
　㋺：制動灯、尾灯
　㋩：後退灯
④取り付けは外側にピン（2か所）を先に差し込んでからネジ２本を取り付けてください。

8 サービスデータ

サービスデータ

交換時期については、舗装路を１年に 10,000 km 程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど特殊な使われ方をした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

<table>
<tr><td rowspan="4">スパーク
プラグ</td><td colspan="2">車種</td><td>NGK</td><td>デンソー</td><td>チャンピオン</td><td>電極すき間</td></tr>
<tr><td colspan="2">マイルドチャージ車以外</td><td>BKR5E-11</td><td>K16PR-U11</td><td>RC10YC4</td><td>1.0～1.1 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">マイルドチャージ車</td><td>BKR6E</td><td>K20PRU</td><td>―――</td><td>0.7～0.8 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">交換時期</td><td colspan="4">20,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキ
ペダル</td><td colspan="2">遊び</td><td colspan="4">1～3 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">踏込時ペダルブラケット
のナットとの距離</td><td colspan="4">65 mm以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">クラッチ
ペダル</td><td colspan="2">遊び</td><td colspan="4">5～15 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">切れたときのペダルブラ
ケットのナットとの距離</td><td colspan="4">65 mm以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">駐車ブレーキレバー</td><td colspan="2">約200N（約20 kgf）の
力でゆっくり引いたとき</td><td colspan="2">3～5 ノッチ</td></tr>
<tr><td colspan="3">タイヤ空気圧</td><td colspan="4">8－5ページ参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">ウォッシャータンク容量</td><td colspan="4">2.0 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料タンク容量</td><td colspan="4">約32 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="3">使用燃料</td><td colspan="4">無鉛レギュラーガソリン</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">エンジンの
タイミングベルト</td><td>使用ベルト</td><td colspan="4">専用タイミングベルト</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">エアクリーナー
エレメント</td><td>使用部品</td><td colspan="4">純正エアクリーナエレメント</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="5">バッテリー型式</td><td rowspan="4">FWD車※1</td><td>MT車</td><td>温地</td><td colspan="2">26B17L（12V21AH）</td></tr>
<tr><td>MT車</td><td>寒冷地</td><td colspan="2">38B19L（12V28AH）</td></tr>
<tr><td>i-CVT車</td><td>温地</td><td colspan="2">38B19L（12V28AH）</td></tr>
<tr><td>i-CVT車</td><td>寒冷地</td><td colspan="2">44B20L（12V34AH）</td></tr>
<tr><td>AWD車※2</td><td colspan="4">FWD車の寒冷地の物を使用してください</td></tr>
</table>

※1：前輪駆動車
※2：全輪駆動車

<table>
<tr><td rowspan="7">エンジンオイル</td><td rowspan="5">使用オイル</td><td>スバルモーターオイル SM 5W-30</td><td>5W-30（SM級）</td></tr>
<tr><td>スバルモーターオイル SM 0W-20</td><td>0W-20（SM級）</td></tr>
<tr><td>スバルモーターオイル SL 5W-30</td><td>5W-30（SL級）</td></tr>
<tr><td>FREEDOM</td><td>10W-30</td></tr>
<tr><td>エルフ 10W-50 レ・プレイアード</td><td>10W-50</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約2.4 ℓ（オイルフィルター交換なし時）
オイルフィルター交換時は約0.2 ℓ 多く補充してください</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">10,000 kmごと、または12か月ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">エンジンの
オイルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="2">純正オイルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">10,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フューエルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="2">純正フューエルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">トランスミッション
オイル
（マニュアル車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラ　75W/80（GL-4）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>FWD車</td><td>約2.0 ℓ</td></tr>
<tr><td>AWD車</td><td>約3.3 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">トランスミッション
フルード
（i-CVT車）</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルi-CVTフルード</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>FWD車</td><td>約4.8～5.0 ℓ</td></tr>
<tr><td>AWD車</td><td>約5.3～5.6 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">リヤデファレンシャル
オイル</td><td>量の判定基準</td><td colspan="2">フィラープラグ穴下端より
0～－5 mm間にあること</td></tr>
<tr><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラS　75W-90（GL-5）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約0.8 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">冷却水</td><td>使用冷却水</td><td colspan="2">スバルクーラント</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約3.1 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>ワゴン系</td><td>1回目：40,000 kmごと、または3年目
2回目以降：40,000 kmごと、または2年ごと</td></tr>
<tr><td>バン系</td><td>40,000 kmごと、または2年ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
</table>

項目		内容	
パワーステアリングのフルード（油圧式）	規定量	約0.6 ℓ	
	使用フルード	スバルPSフルード	
ブレーキフルード	使用フルード	スバル純正ブレーキフルード（DOT3） （銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと）	
	交換時期	初回3年、以降2年ごと	
ドラムブレーキのシューのライニング摩耗限度	後輪	標準厚さ：3.9 mm、使用限度：1.7 mm	
ディスクブレーキのパッドの摩耗限度	前輪	標準厚さ：9.0 mm、使用限度：1.5 mm	
点火時期	全車	BTDC10°/750 rpm	
弁すき間	冷間時	吸気	0.15 mm
		排気	0.30 mm

約100N（約10 kgf）で押したときのベルトのたわみ量

マイルドチャージャー車			マイルドチャージャー車以外		
イ	新品	4.0～4.5 mm	イ	新品	5.0～6.5 mm
	継続	4.0～5.0 mm			
ロ	新品	4.5～5.5 mm		継続	6.0～7.0 mm
	継続	5.5～6.5 mm			

<タイヤ・ホイール>

- 標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。
- 参考：標準装着タイヤおよび応急用スペアタイヤ（車種・グレードによって異なります）

■ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	オフセット量
155/70R12	12×4.00B	100	45
155/65R13	13×4.00B	100	45

■タイヤ空気圧
Aグレード

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm²）		
		前輪	後輪	備考
2WD	155/70R12	230（2.3）	230（2.3）	
	155/65R13	240（2.4）	230（2.3）	ABSあり
AWD	155/70R12	240（2.4）	230（2.3）	
	155/65R13	240（2.4）	230（2.3）	ABSあり

Aグレード以外

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm²）		
		前輪	後輪	備考
2WD	155/70R12	210（2.1）	210（2.1）	L、LタイプSは除く
	155/65R13	210（2.1）	210（2.1）	ABSあり
AWD	155/70R12	210（2.1）	210（2.1）	L、LタイプSは除く
	155/65R13	220（2.2）	210（2.1）	ABSあり

■スペアタイヤ　　　　　　　　単位：kPa（kgf/cm^2）

タイヤサイズ	ホイール	空気圧
T105/90D12	12×3.00B	420（4.2）
T105/70D14	14×4T	420（4.2）

■タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの溝の深さ	1.6 mm以上

■バルブの仕様

●フロント廻りのランプ

項　　目		V－W
ヘッドランプ		12－60／55
フォグランプ	標準バンパー	12－51
	スポーティバンパー	12－55
前面方向指示灯兼非常点滅灯		12－21
車幅灯		12－5
側面方向指示灯兼非常点滅灯		12－5

●リヤ廻りのランプ

項　　目		V－W
リヤコンビネーションランプ	制動灯／尾灯	12－21／5
	後面方向指示灯兼非常点滅灯	12－21
	後退灯	12－16
ライセンスランプ		12－5
ハイマウントストップランプ（室内用）		12－21

●室内のランプ

項　　目	V－W
ルームランプ	12－8

さくいん

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

め

ゆ

ら

り

る

わ

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120－052215

受付時間　9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00～13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　**富士重工業株式会社**

スバルカスタマーセンター
カスタマーセンター企画部

PLEO RA1-370001～399999,RA2-171001～199999,RV1-102001～124160,RV2-032001～036570